
漢代より唐代に至る地方志書思想史的研究

(10871003)

平成10～11年度科学研究費補助金（萌芽的研究）研究成果報告書

平成12年3月

研究代表者 薄井俊二
（埼玉大学教育学部助教授）

はじめに

漢代から唐代にかけては、ある特定の地方・地域を記述の対象とする地方志や、出身地別の名士伝等の「地方」をコンセプトとする著述が数多く作られた。それは、それ以前の漢代に有力であった「唯一の皇帝を頂点に頂く中央指向の世界観」が崩壊したと無縁ではない。つまり、「中央・統一指向」から「地方・分立指向」へと人々の意識が傾いていたことが地方志的地理書登場の背景にあると考えられる。それゆえ、この時期の地方志研究は、広く思想史・精神史的な展開のなかに位置付けて捉え直されなければならない。

本研究は、上記の問題意識に基づいて、分裂期であった六朝期に登場した「地方志的地理書」を思想史的に捉え直し、それが、分裂状態が解消した隋唐期にあってどのように展開していったのかを明らかにすることを目的とする。

しかし、当時の「地方志的地理書」は、一部を除き散逸状態にある。そこでまず、類書などの諸書に断片的に残されている文献資料の輯逸作業を行って、あとう限り原書の復元を試みる必要がある。基礎となる文献資料の整理がなされていない段階で、思想史的な考察を組み立てようとしても、脆弱なものしかできないからである。

そこで本研究では、逸文蒐集作業に力点を置いて検討を進めた。研究代表者の薄井が主に作業に従事し、研究分担者の田村と小林が、専門的見地から助言をするという形で研究を進めた。

その結果、漢代から唐代に至る地理書については、かなりの資料を収集することができた。さらにそれらを整理して、本報告書に所収の、以下の二種類の研究成果をまとめるに至った。

- 1 「漢唐地理書目（稿） その2～起漢至唐五嶽四瀆及諸名山川書記 篇～」
- 2 「漢唐地理書輯逸（稿） その1～起漢至唐五嶽四瀆及諸名山川書 篇～」

1は、山岳や河川を記述の対象とした文献資料に関する目録と解題である。漢代より唐代に至る間に作成されたものの、その後散逸している文献資料84種類について、諸書に引用されている断片を蒐集し、それらひとつひとつについて、書名・著者・成書年代・内容等についての考察を加えたものである。この資料集は、研究代表者の薄井が、平成7年3月に作成した『平成6年度科学研究費補助金（一般研究C）研究成果報告書』所収の「漢唐地理書目（稿）その1～起漢至唐諸州書記 篇～」の続編である。

2は、1の諸書の本文篇である。なお本文篇では、「南嶽小録」や「王嘉名山記」のように、原文が存在している資料については、紙幅の関係もあって掲載を見合わせた。ただし、電子化は済んでいるので、データベースなど、別の形で公刊したい。

今回蒐集整理した文献資料の中には、慧遠『廬山記』や王嘉『名山記』のように、ほぼ全文が残っているもの、あるいは謝靈運『遊名山志』や張玄之『吳興山墟名』のように、既にある程度輯逸作業が施されているものもある。しかし、張野『廬山記』や徐靈期『羅浮山記』のように、これまでほとんど顧みられなかった資料がほとんどである。その点、今回の輯逸作業と考察によって、当該時期の山川志の姿が、いくらかなりとも明らかになったことは、これからの研究の展開にとって、大きな意義を持つものと考えられる。

研究概要

【研究組織】

研究代表者：薄井俊二（埼玉大学教育学部助教授）

研究分担者：田村 均（埼玉大学教育学部助教授）

：小林 聡（埼玉大学教育学部助教授）

【研究経費】

1998年度（平成10年度）：1,300千円

1999年度（平成11年度）：700千円

計 2,000千円

【研究発表】

（1）学会誌等

薄井俊二：

：「前漢成帝期の后妃論をめぐって」『中国哲学論集』第24号、1998年10月

田村 均：

：「機屋・箆屋・機大工」『所沢市史研究』第21号、1998年3月

：「地域博物館の新たな可能性」

『埼玉大学紀要 教育学部（人文・社会科学）』第47巻第1号、1998年3月

：「ポーランド歴史的都市の広場の空間構成と建築景観」

『埼玉大学地理学研究報告（教育学部）』No.18、1998年12月

：「畑作・複合小経営のむらの諸営業と農村職人～明治前期狭山丘陵山口谷の旧氷川村～」

『所沢市研究』第22号、1999年3月

：「産業案内誌の編纂と共進会～明治後期の埼玉県ガイドブック～」

『埼玉県資料叢書月報』No.6、1999年6月

：「ポーランド歴史的都市の色彩景観～広場建築ファサードの配色パターン～」

『埼玉大学地理学研究報告（教育学部）』No.19、1999年12月

小林 聡

：「隋書に見える梁陳時代の印綬冠服規定の来源について」

『埼玉大学紀要 教育学部（人文・社会科学）』第47巻第1号、1998年3月

【研究成果】

- 1 「漢唐地理書目（稿） その2～起漢至唐五嶽四瀆及諸名山川書記 篇～」
- 2 「漢唐地理書輯逸（稿） その1～起漢至唐五嶽四瀆及諸名山川書 篇～」

目 次

はじめに	(1)
研究概要	(2)
目 次	(4)
「漢唐地理書目（稿）その2～起漢至唐五嶽四瀆及諸名山川書記 篇～」	(5)
凡例	(6)
本文	
漢唐地理書目（稿）その2～起漢至唐五嶽四瀆及諸名山川書記 篇～	(10)
[00] 五岳諸名山	(10)
[01] 河北山西	(15)
[02] 山東	(18)
[03] 河南	(20)
[04] 兩江	(22)
[05] 浙閩	(23)
[06] 湖南北	(26)
[07] 陝西甘肅	(31)
[08] 広東西	(33)
[09] 四川雲南	(35)
[10] 江西	(36)
[50] 四瀆海湖	(41)
「漢唐地理書輯逸（稿）その1～起漢至唐五嶽四瀆及諸名山川書 篇～」	(49)
凡例	(50)
本文	
漢唐地理書輯逸（稿）その1～起漢至唐五嶽四瀆及諸名山川書 篇～	(53)
[00] 五岳諸名山	(53)
[01] 河北山西	(67)
[02] 山東	(73)
[03] 河南	(76)
[04] 兩江	(81)
[05] 浙閩	(83)
[06] 湖南北	(89)
[07] 陝西甘肅	(101)
[08] 広東西	(107)
[09] 四川雲南	(115)
[10] 江西	(116)
[50] 四瀆海湖	(129)
書名索引	(146)

漢唐地理書目（稿）その2

～起漢至唐五嶽四瀆及諸名山川書記 篇～

薄井 俊二

凡例

一、本稿は、漢代から唐代に至る間に作られたとされる「地理書」のうち、山岳や河川を対象として著述された「山川志」の類の資料を集めて、それらの目録として作成したものである。

一、本目録の構成は、王謨の『漢唐地理書鈔』を参考にし、若干の補足訂正を加えることとする。

即ち、目録全体の構成としては、同書の嘉慶十六年（1811）の凡例に付された目録（以下「初本目録」と略称）が、それぞれの資料の内容に基づく「十二門類」に分類しているものに従うこととする。ちなみに、「山川」を著述の範囲とする地理書を扱う本稿においては、同書の「五岳四瀆及諸名山川書記」の部分に収録されている資料を中心として目録を作成する。

なお、「初本目録」の構成と収録資料数は次の通り。

〈漢唐地理書鈔初本目録〉

01	天文星野及五帝三王地理書記	－45種
02	起秦漢訖隋唐歷朝地理書記	－35種
03	漢魏訖唐諸州地理書記	－45種
04	漢魏訖唐諸郡國地理書記	－172種
05	五岳四瀆及諸名山川書記	－56種
06	歷代都邑宮闕寺廟書記	－18種
07	聖賢墟墓神仙洞府書記	－20種
08	各方故事遺聞稗雜書記	－28種
09	行役征途經涉地理書記	－26種
10	四裔外國地理書記	－35種
11	諸州郡先賢耆舊仙眞傳	－41種
12	各州郡土產異物及本草道地書記	－23種

一、「十二門類」それぞれの内部構成については、地域ごとにまとめることとし、「初本目録」出版後に出された「重訂漢唐地理書鈔」の目録（以下「重訂本目録」と略称）における十区画区分に従う。

なお、「重訂本目録」の構成と収録資料数は次の通りであるが、（第三冊）（第四冊）部分が地域ごとの分類になっており、本稿では、「河北山西（重訂本目録では「直隸山西」とする）」を〔01〕とし、以下〔10〕の「江西」までの十部構成とする。

〈漢唐地理書鈔重訂本目録〉

（第一冊）

天文星野及五帝三王地理書目	－36種
---------------	------

（第二冊）

起秦漢訖隋唐歷朝地理書目	－33種
--------------	------

(第三冊)

01 直隸山西古地理書目	— 34種	*本稿では「河北山西」とする
02 山東古地理書目	— 13種	
03 河南古地理書目	— 23種	
04 兩江古地理書目	— 47種	
05 浙閩古地理書目	— 23種	

(第四冊)

06 湖南北古地理書目	— 40種	
07 陝甘古地理書目	— 23種	*本稿では「陝西甘肅」とする
08 廣東西古地理書目	— 27種	
09 四川雲貴古地理書目	— 29種	
10 江西古地理書目	— 35種	

一、収録資料のそれぞれには、六桁の整理番号を付すが、それぞれの意味するところは次の通りである。

初めの二桁の番号は、「初本目録」における「十二門類」を示す。本稿は「五岳四及諸名山川書記」なので、それに相当する〔05〕がつくことになる。

次の二桁の番号は、記述されている地域を示す。それぞれの番号と地域の対応は、上記凡例に記した「重訂本目録」による。

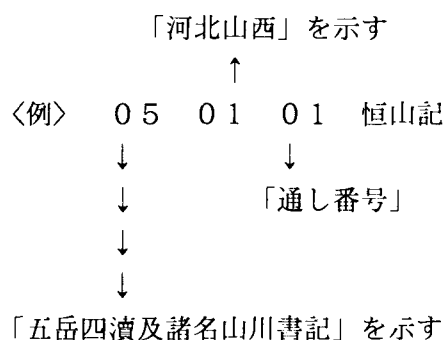
ただし、山岳や河川の場合は、政治的な区域に収まりきれない場合がある。またいくつかの名山や河川を総括的に述べる場合もある。そこで本目録では、次のような特例を設けることとした。

①五岳や複数の名山を集めた文献には〔00〕の番号を与える。

②河川や海湖を対象とした文献は、地域ごとに分けずにすべて〔50〕の番号を与える。

③山岳や河川にわたって記したものであっても、特定の地域に限定して記述しているものは、他の資料同様「重訂本目録」の地域に対応した番号を与える。

最後の二桁の番号は、それぞれのカテゴリーの内部における通し番号である。



一、1件について、以下の各項目の情報を付す。

〈1〉書名

引用されている資料により書名が異なるものについては、適宜注記した。

〈2〉著者

作者の伝記資料などについても注記した。

〈3〉成書年代

〈2〉〈3〉については、〈7〉の先行研究を参照した。

〈4〉正史経籍志等への登録

検討した正史は次の通り。

- ・「隋書経籍志」…… 「隋志」と略称。
- ・「旧唐書経籍志」… 「旧唐」と略称。
- ・「新唐書芸文志」… 「新唐」と略称。
- ・「宋史芸文志」… 「宋志」と略称。
- ・「通志」
- ・「直齋書録解題」… 「直齋」と略称。
- ・「郡齋読書志」…… 「郡齋」と略称。
- ・「日本国見在書目」… 「日本」と略称。

〈5〉逸文所収資料

主なものと略称は次の通り。

- 「尚書・正義」「經典積文」
 - 「史記・三家注」「後漢書・李賢注（注と略称）」「統漢書志・劉昭注（注と略称）」
 - 「三国志・裴松之注（注と略称）」
 - 「水經注」「元和郡県志」「太平寰宇記」「通典」
 - 「齊民要術」
 - 「文選・李善注」「文選・六臣注」「世説新語・劉孝標注（注と略称）」
 - 「事類賦・注」
 - 「北堂書鈔」「芸文類聚」「北堂書鈔」「初学記」「白孔六帖」「太平御覽」
- 同一書と同じ巻に複数収録されている場合は、（ ）で件数を記した。

また、異名もしくは同一書の誤りと思われるもの、著者名を記さないが明らかに当該資料と思われるものは、*印を記し、*〔廬山記〕のごとく別記した。

〈6〉輯逸本

主なものと略称は次の通り。

- ・「説郛」（元陶宗儀輯編）
- ・王謨「漢唐地理書鈔」（中華書局、1961年）…「現行本地理書鈔」と略称。
- ・陳運溶「麓山精舍輯本」（中華書局版「漢唐地理書鈔」に併録）…「麓山」と略称。
- ・王仁俊「玉函山房輯佚書補編」（上海古籍出版社、1989年）…「補玉函」と略称。

- ・朱祖延「北魏佚書考」(中州古籍出版社、1985年)
- ・劉緯毅『漢唐方志輯逸』(北京圖書館出版社、1997) …「劉緯毅」と略称。

〈7〉言及論文など

- ・章宗源「隋書經籍志考証」(「二十五史補篇」第四冊所収) …「章」と略称。
- ・姚振宗「隋書經籍志考証」(「二十五史補篇」第四冊所収) …「姚」と略称。
- ・丁國鈞「補晉書芸文志」(「二十五史補篇」第三冊所収) …「丁」と略称。
- ・文廷式「補晉書芸文志」(「二十五史補篇」第三冊所収) …「文」と略称。
- ・秦榮光「補晉書芸文志」(「二十五史補篇」第三冊所収) …「秦」と略称。
- ・吳士鑑「補晉書經籍志」(「二十五史補篇」第三冊所収) …「吳」と略称。
- ・黃逢元「補晉書芸文志」(「二十五史補篇」第三冊所収) …「黃」と略称。
- ・青山定雄「支那の山川志～宋代以前～」(「龍谷學報」第332号、1942)
…「青山」と略称。
- ・樂調甫「齊民要術引用書目考証」『齊民要術考証』(文史哲出版社、1994)
…「樂調甫」と略称。

〈8〉備考

漢唐地理書目（稿） その2

～起漢至唐五嶽四瀆及諸名山川書記 篇～

[0500] 五岳諸名山

050001

<1> 五岳真形圖

<2> 不詳

<3> 不詳

<4> 日本：五嶽圖一（巻）

<5> <太平御覽> 巻44、巻675（3）

* [五岳真形圖經]

<太平御覽> 巻678

* [五岳真圖]

<太平御覽> 巻676

* [五岳圖序]

<太平御覽> 巻47

* [五岳圖]

<初学記> 巻5

<太平御覽> 巻663

* [五岳山名圖]

<太平御覽> 巻674

<6> なし

<7> なし

<8> 「漢武内伝」に、魯女生が「五岳真形（図）」を授けられた話がある（「後漢書」巻82 下方術伝下華佗伝劉昭注引、同 封君達伝劉昭注引）。

また「道藏」巻六所収「洞玄靈寶五嶽占本真形圖」（伝東方朔撰）があるが、その内容は、上記輯逸資料とはかなりの出入がある。

050002

<1> 名山略記

<2> 不詳

<3> 六朝期（青山）

<4> なし

<5> <芸文類聚> 巻7

<初学記> 巻8

<白孔六帖> 巻5（2）

<太平御覽> 巻41、巻47、巻59、巻716、巻989

<太平寰宇記> 巻97

<文選・李善注> 巻11

* [名山記]

〈太平御覧〉 卷 663 (2)、卷 667、卷 674 (2)、卷 762、卷 909、卷 957、卷 991、
卷 996

〈太平寰宇記〉 卷 29、卷 96、卷 141

〈6〉 なし

〈7〉 章、秦、青山

〈8〉 章並びに秦は、「太平寰宇記によれば作者は「殷武」である」とするも、「太平寰宇記」には当該の記述はない。

050003

〈1〉 仙人採芝圖

〈2〉 なし

〈3〉 なし

〈4〉 なし

〈5〉 〈太平御覧〉 卷 986

〈6〉 なし

〈7〉 なし

〈8〉

050004

〈1〉 謝靈運遊名山志

〈2〉 謝靈運 [385 ~ 433]

：陳郡陽夏（河南省）の人。字は宣明。官は永嘉太守等を歴任し、臨川内史の時に反逆罪に問われ、やがて刑死した。山川詩人として有名で、仏教にも深かった。

謝靈運の著述については下記参照。

顧紹柏校注『謝靈運集校注』（中州古籍出版社、1987）

森野繁夫訳注『謝康樂詩集（上・下）』（白帝社、1994）

：宋書卷 67 謝靈運伝、南史卷 19 謝氏列伝

〈3〉 劉宋

〈4〉 隋志：遊名山志 一卷 謝靈運撰

日本：遊名山志 一卷

通志：遊名山記 一卷

〈5〉

* 「序」

〈初学記〉 卷 5

〈芸文類聚〉 卷 7

* 本文

〈初学記〉 卷 5

〈芸文類聚〉 卷 8

〈太平御覧〉 卷 942

- 〈文選・李善注〉 卷 22 (4)、卷 25 (2)、卷 30
- * [謝靈運名山志]
 - 〈芸文類聚〉 卷 8
 - 〈太平寰宇記〉 卷 99
- * [謝靈運記]
 - 〈太平寰宇記〉 卷 99
- * [遊名山志]
 - 〈北堂書鈔〉 卷 147
 - 〈太平御覽〉 卷 52、卷 959、960、卷 975、卷 989 (2)、卷 990、卷 992、卷 993、
卷 994、卷 1000
 - 〈齊民要術〉 卷 10
- * [遊名山記]
 - 〈太平御覽〉 卷 928、卷 992 (2)
- * [遊名山者]
 - 〈太平寰宇記〉 卷 99
- * [名山志]
 - 〈太平御覽〉 卷 957
 - 〈太平寰宇記〉 卷 86、卷 96、卷 99
- * [名山記]
 - 〈太平寰宇記〉 卷 99
- 〈6〉 全宋文 (12 条)
 - 顧紹柏校注『謝靈運集校注』(中州古籍出版社、1987)
- 〈7〉 章、青山、樂調甫
- 〈8〉

050005

- 〈1〉 山居圖
- 〈2〉 謝靈運→050004 参照
- 〈3〉 劉宋
- 〈4〉 隋志：居名山志一卷 謝靈運撰
通志：居名山志一卷 謝靈運撰
- 〈5〉 〈文選・李善注〉 卷 26
 - * [謝康樂山居記]
 - 〈水經注〉 卷 40 に書名のみ引用
- 〈6〉 なし
- 〈7〉 なし
- 〈8〉 謝靈運には「山居賦並序」があり、宋書本伝に全文を収録する。

050006

- 〈1〉 王嘉名山記

<2> 王嘉

：晋書卷95 藝術傳本伝

<3> 西晋（青山）

<4> 直齋：名山記一卷 『拾遺記十卷』の第十卷（卷十一小説家類）

<5>

<6> 存

：『増訂 漢魏叢書』所収の「王嘉拾遺記十卷」の第十卷がこの「名山記」にあたる。

<7> 青山

<8> 直齋卷十一小説家類には『拾遺記十卷』管隴西王嘉子年撰蕭』綺麗序録』を受け
て『名山記一卷』亦稱王子年即前之第十卷〔按此句原本誤脱今據文獻通攷増入〕大
抵皆詭誕嘉符秦時人見晉書藝術傳』とある。

輯逸篇では省略した。

050007

<1> 永初山川古今記二十卷

<2> 劉澄之〔生卒年不詳〕

：劉宋の一族。武帝の族弟である劉遵考の子。宋書卷51 宗室伝營浦侯遵考伝に「遵考、高祖族弟也。…子澄之、順帝昇明末貴達」とあり、同卷10 順帝本紀に「昇明元年（477）八月、以驃騎長史劉澄之爲南豫州刺史」とある。

：隋志・史・地理：司州山川古今記 三卷 劉澄之撰

<3> 劉宋

<4> 隋志：永初山川古今記 二十卷 齊都官尚書劉澄之撰

新唐：劉澄之永初山川古今記二十卷

通志：永初山川古今記 二十卷 齊都官尚書劉澄之撰

<5>

* [劉澄山川記]

〈太平寰宇記〉卷57

* [劉澄之永初山川記]

〈太平寰宇記〉卷5

* [宋永初古今山川記]

〈太平寰宇記〉卷56、卷103、卷106、卷109 (2)

* [宋永初山川記]

〈太平寰宇記〉卷13、卷32、卷46、卷56、卷131、卷132 (2)、補卷114 (2)

* [山川記]

〈太平寰宇記〉卷91、卷93

<6> 『漢唐地理書鈔』

<7> 章、姚、青山

<8> 〈初学記〉〈太平御覽〉などに [劉澄之揚州記] [劉澄之豫州記] [劉澄之荊州記] [劉澄之江州記] [劉澄之鄱陽記] [劉澄之交州記] [劉澄之広州記] [劉澄之梁州記] が引かれている。これらは [永初山川古今記] の一部分ではないか (姚)。

050008

<1> 元結五嶽諸山記一卷

<2> 元結〔開元 11 (723) ~大暦 7 (772)〕

：字次山、魯県（河南省）の人。天宝 12 (753) の進士。時に安録山の乱にあたり、監察御史として活躍。著作郎、道州刺史などをつとめた。韓愈の古文復興運動の先駆としても知られる。

「元次山集」十二卷（四部叢刊所収）がある。

：新唐書卷 143 本伝

<3> 唐

<4> 新唐：元結諸山記一卷

直齋：五嶽諸山記一卷 無名氏多鄙誕不經

<5> なし

<6> なし

<7> 青山

<8>

[0501] 河北山西

050101

<1> 恒山記

<2> 不詳

<3> 不詳

<4> なし

<5> なし

<6> なし

<7> なし

<8> 太平御覽卷39に「晏天王按山記」がある。この「山記」、あるいは「恒山記」の「恒」が脱落したものか？

* 「晏天王按山記」

〈太平御覽〉卷39(2)

050102

<1> 恒山圖經(常山圖經)

<2> 不詳

<3> 不詳

<4> なし

<5>

* 「常山圖經」

〈太平御覽〉卷39

<6> なし

<7> なし

<8> 劉緯毅は「常山」を郡名と見なし、「○○圖經」の類と見る。しかし「衡山圖經」の例もあるので、ここでは「常山」を山名と見ておく。

050103

<1> 羊頭山記

<2> 不詳

<3> 晋(文)、唐?(青山)

<4> なし

<5> 〈太平御覽〉卷176(3) 卷189(6)、卷870

<6> なし

<7> 文、青山

<8>

050104

- 〈1〉 邢子勵龍山記
- 〈2〉 邢子勵〔伝不詳〕
- 〈3〉 南北朝（青山）
- 〈4〉 なし
- 〈5〉 〈北堂書鈔〉 卷 158
- 〈6〉 なし
- 〈7〉 青山
- 〈8〉

：参考：

- 〈史記・正義〉 卷 43 趙世家に〔邢子厲趙記〕（1 条）が引かれる。
- 〈太平寰宇記〉 卷 66 に〔邢子勵記〕（1 条）があるが、同じ巻内に〔邢子勵三郡記〕（3 条）があるので、おそらくそちらか？
- 隋志：北齊特進邢子才集 三十一卷
→北齊書卷 36 本伝、北史卷 43 邢巒伝附伝

050105

- 〈1〉 王屋山記一卷
- 〈2〉 李歸一〔伝不詳〕
- 〈3〉 唐乾符 3 年（876）
- 〈4〉 直齋：王屋山記一卷 唐乾符三年道士李歸一撰
宋志：李居一王屋山記一卷
- 〈5〉 なし
- 〈6〉 なし
- 〈7〉 青山
- 〈8〉

050106

- 〈1〉 三晉山險記
- 〈2〉 不詳
- 〈3〉 南北朝（青山）、北齊以前（劉緯毅）
- 〈4〉 なし
- 〈5〉 〈太平御覽〉 卷 969 果部。
- 〈6〉 劉緯毅（1）
- 〈7〉 青山
- 〈8〉 あるいは「三晉記」と同じか？→（三晉記）

：参考：

* [三晉記]

- 王遵業撰〔生卒年不詳〕
- ：太原晉陽（山西省）の人。官は黄門郎に至る。三晉記十巻を著す。
- ：魏書卷 38 王慧龍伝附本伝、北史卷 35 王慧龍伝附本伝

〈太平寰宇記〉卷46所収

050107

- 〈1〉神壤記
- 〈2〉黄閔〔伝不詳〕
- 〈3〉隋（青山）
- 〈4〉隋志：神壤記 一卷 記滎陽山水 黄閔撰
通志：神壤記 一卷 黄閔撰 記滎陽山水
- 〈5〉なし
- 〈6〉なし
- 〈7〉姚、青山
- 〈8〉〈太平御覽〉地部等に「黄閔武陵記」が引かれ、又「王韶之神境記」が引かれる。

[0502] 山東

050201

- 〈1〉泰山記（太山記）
- 〈2〉不詳
- 〈3〉不詳
- 〈4〉なし
- 〈5〉〈芸文類聚〉巻 88（2）
 - 〈初学記〉巻 5、巻 28
 - 〈白孔六帖〉巻 5
 - 〈太平御覧〉巻 39、巻 956、巻 986
 - 〈史記・正義〉巻 43、巻 69
 - 〈太平寰宇記〉巻 13、巻 23

* [太山郡記]

- 〈史記・正義〉巻 40
- 〈6〉なし
- 〈7〉章、青山
- 〈8〉次の「封禪儀記」を併せ見られたい。

050202

- 〈1〉馬第伯封禪儀記
- 〈2〉馬第伯〔生卒年不詳〕：伝不詳
- 〈3〉後漢：建武 32（56）に挙行された「封禪」の記録
- 〈4〉なし
- 〈5〉略→〈6〉薄井を参照のこと
- 〈6〉全後漢文（53）
 - 薄井俊二「封禪儀記訳注稿」（森田明編『中国水利史研究会創立 30 周年記念論文集 中国水利史の研究』、1995）
- 〈7〉〈6〉薄井
- 〈8〉輯逸篇では省略した。

050203

- 〈1〉劉薈鄒山記（劉薈騶山記）
- 〈2〉劉薈（初学記作「劉會」）
- 〈3〉梁以前（青山）
- 〈4〉なし
- 〈5〉〈芸文類聚〉巻 88
 - 〈太平御覧〉巻 42、巻 956
 - 〈史記・正義〉巻 2 夏本紀（禹貢）
 - 〈水經注〉巻 24

*「劉會鄒山記」
〈初学記〉 卷 28

〈6〉 なし

〈7〉 章、青山

〈8〉

[0503] 河南

050301

<1> 盧元明嵩高山記（盧元明嵩山記、嵩高山記、嵩山記、嵩高記）

<2> 盧元明〔生卒年不詳〕

：范陽涿（河北省）の人。字は幼章。北魏の中書侍郎、東魏の散騎常侍等を歴任した。

：隋志・集・別集：後魏太常卿盧元明集 十七卷

：魏書卷 47、北史卷 30

<3> 北魏：天平年間（534～537）の事跡有り

<4> なし

<5> <北堂書鈔> 卷 90、卷 142

<芸文類聚> 卷 9、卷 62、卷 88

<太平御覽> 卷 15、卷 39、卷 361、卷 532、卷 757、卷 931、卷 953、卷 960、
卷 967、卷 968、卷 969、卷 981、卷 986、卷 989、卷 900

<水經注> 卷 40（2）

<太平寰宇記> 卷 7

<齊民要術> 卷 4・自注

<文選・李善注> 卷 19

* [嵩山記]

<北堂書鈔> 卷 12、卷 137

<初学記> 卷 5（4）、卷 7、卷 28

<太平御覽> 卷 69 地部。卷 189 居處部。

<元和郡縣圖志> 卷 5

<太平寰宇記> 卷 4、卷 5（4）

<齊民要術> 卷 10

* [嵩高記]

<北堂書鈔> 卷 16

<路史> 卷 9

<6> 「北魏佚書考」（20 条）

<7> 章、青山、樂調甫

<8>

050302

<1> 盧鴻嵩山記一卷

<2> 盧鴻〔生卒年不詳〕

：字顛（浩）然。先は范陽の人で、のちに洛陽に移る。嵩山に隠棲していたが、開元初（713）に召されるも応ぜず。5 年（717）に詔があり、東都に至ったが朝せず、帰山を許された。『旧唐書』は「盧鴻一」とする。

：旧唐書卷 192 隱逸伝本伝、新唐書卷 196 隱逸伝

<3> 唐玄宗開元時（青山）

- <4> 新唐：盧鴻 嵩山記一卷 天寶人
宋志：盧鴻嵩嶽記一卷
- <5> なし
- <6> なし
- <7> 青山
- <8>

050303

- <1> 中岳潁川志五卷
- <2> 樊深〔生卒年不詳〕
 - ：字文深、河東猗氏（山西省）の人。縣伯中大夫、開府儀同三司に任じた。
北周の建徳5（572）に退隱した。
 - ：隋志・經・礼　：喪服疑問　一卷　樊氏撰
 - ・經・論語：五經大義　十卷　後周縣伯中大夫樊文深撰
 - ・經・論語：質疑　五卷　樊文深撰
 - ：周書卷45 儒林伝本伝、北史卷82 儒林伝本伝
- <3> 北周
- <4> 旧唐志：中岳潁川志五卷　樊文深撰
新唐志・樊文深　中岳潁州志五卷
- <5> なし
- <6> なし
- <7> 青山
- <8>

[0504] 両江

050401

<1> 虎丘山記

<2> 王珣〔350～401〕

：字元琳、琅邪臨沂（山東省）の人。東晋の文学者で王導の孫に当たる。

：隋志・集・別集：晉司徒王珣集 十一卷 並目錄 梁十卷 録一卷 亡

：晋書卷 65 王導伝附本伝

<3> なし

<4> なし

<5>

* [王珣虎丘記]

〈芸文類聚〉卷 8

* [虎丘山疏]

〈太平御覽〉卷 970、卷 973

〈事類賦・注〉卷 26

* [虎丘山銘]

〈芸文類聚〉卷 8

<6> なし

<7> 文、秦

<8>

050402

<1> 顧愷之虎丘山序

<2> 顧愷之〔344？～405？〕

：字長康。晋陵無錫（江蘇省）の人。東晋の散騎常侍に至った。画家として名高い。

：隋志・経・小学：啓蒙記三卷 晉散騎常侍顧愷之撰

・集・別集：晉通直常侍顧愷之集 七卷 梁二十卷

：晋書卷 92 文苑伝本伝

<3> 東晋

<4> なし

<5> 〈芸文類聚〉卷 8 山部下・虎丘山・序

〈太平御覽〉卷 46

<6> なし

<7> 文

<8> 〈太平寰宇記〉卷 91 に書名のための引用有り。

[0505] 浙閩

050501

<1> 徐靈符天台山記

<2> 徐靈符：唐元和中人（直齋）

<3> 唐 元和（806～820）ころ

<4> 直齋：唐道士徐靈符撰元和中人也余假守臨海就使本道嘉熙丙申十月解郡符趨會稽治所道過之銳欲往遊會大雪不果改轅由驛道至今以爲恨偶見此記錄之以寄臥遊之意

澄伝教大師将来台州録：南岳並天台山記一卷

<5>

* [天台記]

<太平御覽> 卷 867

<事類賦・注> 卷 17

<6> 存

：古逸叢書第 2 冊所収

<7> 青山

<8> 輯逸篇には未収録

050502

<1> 顧渚山記

<2> 陸羽：〔?～804?〕

：唐代の隱士で茶道の開祖。復州竟陵（湖北省）の人であるが、水浜の棄子であったという。上元元年（760）に隱棲し貞元末に没したという。「茶經三卷」がある。

：新唐書卷 121 隱逸伝本伝

<3> 唐

<4> 直齋：唐陸羽鴻漸撰鄉邦不貢茶久矣遺迹未必存也

宋志：陸鴻漸顧渚山記一卷

<5> なし

<6> なし

<7> 青山

<8>

050503

<1> 武夷諸山記

<2> 杜光庭〔唐大中 4（850）?～長興 4（933）、83 才?〕

：字賓聖他。京兆杜陵（陝西省）の人?。道士。「道德真經広聖義」（道藏所収）等の著作があるほか、道教儀礼の整備にも力を注いだ。

今枝二郎「杜光庭小考」『道教研究論集』国書刊行会今枝次郎

<3> 唐末～五代（蜀）

- 〈4〉直齋：武夷山記一卷 杜光庭撰
- 〈5〉なし
- 〈6〉なし
- 〈7〉青山
- 〈8〉

050504

- 〈1〉泉山記
- 〈2〉不詳
- 〈3〉唐大歴年間（766～779）以後（青山）
- 〈4〉なし
- 〈5〉〈太平御覧〉卷47（2）
- 〈6〉なし
- 〈7〉なし
- 〈8〉青山は、「泉山記は逸文に唐の大歴の年號が見えるからそれ以後のものと認めてよ
く…」というが、上記の太平御覧所引の二条には「大歴」の語は見られない。

050505

- 〈1〉烏嶺山記
- 〈2〉不詳
- 〈3〉唐？（青山）
- 〈4〉なし
- 〈5〉〈太平御覧〉卷47
- 〈6〉なし
- 〈7〉なし
- 〈8〉

050506

- 〈1〉吳興山墟名
 - 〈2〉著者に異説あり
 - ：張玄之…A
 - 葉夢得『玉磧雜書』：張玄之晉吳興太守嘗爲吳興山墟名--卷
『晋書』卷79に「張玄之」がある。
 - 丁、劉
 - ：張元之
 - 『輿地紀勝』卷4：吳興山墟名 張元之作
 - 『輿地紀勝』卷4：『張元之吳興山墟名』の逸文を引く。
 - 『太平寰宇記』卷94に『張元之山墟名』の逸文を引く。
- 文118

：張充之

章宗源 18

(注) 以上三名は〔伝未詳〕

：王韶之〔380～435〕吳興太守

『輿地紀勝』卷4に「吳興山墟名 又吳興太守王韶之撰」とある。

：宋書卷60本伝、南史卷24本伝

：隋志・史・古史：晉紀 十卷 宋吳興太守王韶之撰

・集・別集：宋王韶之集 二十四卷 亡

・集・別集：王韶之集 十九卷 亡

・集・総集：晋宋雜詔 八卷 王韶之撰 亡

：沈充〔？～324？〕

：字士居。吳興武康（浙江省）の人。王敦に取り立てられ、反逆に加わり敗死した。

隋志・集・別集：梁有吳興太守沈充集三卷 亡

：晋書卷98王敦伝附本伝

黄

<3> なし

<4>

<5> <太平寰宇記> 卷94 (25) 他

<6> 劉緯毅 (46条)

『范白舫所刊書』清范鍇輯 道光中烏程范氏刊本

『雲自在龕叢書』清繆荃孫輯 光緒中江陰繆氏刊本

(清繆荃孫輯 光緒十七年中江陰繆氏刊)

『范聲山雜著』清范鍇撰 民国二十年北平富晋書社 用原刻本景印

<7> 青山

<8>

[0506] 湖北南

050601

<1> 徐靈期南嶽記（南岳記）

<2> 徐靈期

：作者の徐靈期について

文廷式：通典一百三稱東晉徐靈期間張憑依即此人

→「東晉徐靈期間張憑云、親喪未葬、出適女應除否。答曰…略。」

『通典』卷103・禮63・凶禮25〔久喪不葬服議〕

黃逢元：宋陳田夫南嶽総勝集卷中衡嶽觀條、有晉太康八年吳人徐靈期

又、上清宮條云、吳人徐靈期真人修行之所採訪洞巖谷作南嶽記叙其洞府靈意

青山定雄：西晉時代には吳の真人徐靈期の南岳記……

麓山輯本：南嶽記 宋 徐靈期撰

<3> 吳（青山）、東晉（文、黃）、宋（麓山輯本）

<4> 日本：南岳山記一卷

<5> <北堂書鈔> 卷133

<芸文類聚> 卷64、卷70

<初学記> 卷5（2）、卷8（2）

<白孔六帖> 卷5

<太平御覽> 卷39（2）、卷185、卷703、卷710

<事類賦・注> 卷14

<6> 麓山、玉函

<7> 章、文、黃、青山

<8>

050602

<1> 傅先生南岳記

<2> 傅先生：伝不詳

<3> 不詳

<4> なし

<5> <初学記> 卷25

<6> なし

<7> なし

<8> <5> の「初学記」所収の逸文は、050601に収録した「徐靈期南岳記」の一文と類似している。「傅先生」は、あるいは「徐先生」の誤りか。

050603

<1> 衡山記

<2> 宗居士〔?～480〕

：宗側、南陽（河南省）の人。字は敬微。官途につかず生涯隱遁生活を送った。

南齊書本伝に「著衡山廬山記」とある。

：南齊書卷 54 高逸伝本伝、南史卷 75 隱逸伝本伝

<3> 蕭齊

<4> 隋志：衡山記一卷 宗居士撰

(注) もと著者名「宋居士」に作る。「詳攷」により改める。

宋志：衡山記一卷

<5> <北堂書鈔> 卷 157

<芸文類聚> 卷 6

<初学記> 卷 24

<太平御覽> 卷 53、卷 757、卷 762、卷 763、卷 988

卷 706 (注) これは、上記「徐靈期南岳記」かもしれない。

<文選・李善注> 卷 31

<6> 麓山

<7> 章、青山

<8>

050604

<1> 衡山圖經

<2> 不詳

<3> 不詳

<4> なし

<5> <太平御覽> 卷 49

<6> なし

<7> なし

<8>

050605

<1> 南嶽小録

<2> 李冲昭

<3> 唐天復 (901 ~ 904) 頃 (青山)

<4> なし

<5> なし

<6> 存

：「山川風情叢書」上海古籍出版社

<7> 青山

<8> 輯逸篇は省略した

050606

<1> 武當山記

<2> 殷斌〔伝不詳〕

<3> 唐? (青山)

<4> なし

<5>

* [殷斌當山記]

〈太平御覧〉 卷 757

* [武當山記]

〈北堂書鈔〉 卷 133

〈太平御覧〉 卷 192、卷 710、卷 813

〈太平寰宇記〉 卷 143

* [山記]

〈太平御覧〉 卷 43

<6> なし

<7> 青山

<8>

：参考]

〈太平御覧〉 に [殷斌石室記] あり

050607

<1> 九疑山記

<2> 元結→050008

<3> 唐永泰二年 (766)

<4> なし

<5> なし

<6> 存

：『元次山集』 卷九所収

<7> なし

<8> 輯逸篇では省略した。

050608

<1> 句将山記

<2> 袁山松〔?～晋隆安4 (401)〕

：陳郡陽夏 (河南省) の人。呉郡太守に任じたが、孫恩の乱に遭遇し殺された。

：隋志・史・正史：後漢書 九十五卷 本一百卷 晋秘書監袁山松撰

・集・別集：袁山松集 十卷 (亡)

：晋書卷 83 本伝

<3> 東晋

<4> 「現行本漢唐地理書鈔」

<5> 〈初学記〉 卷 8

〈太平御覧〉 卷 49 (2)

〈太平寰宇記〉卷147(2)

- 〈6〉なし
- 〈7〉章、丁、吳、青山
- 〈8〉

050609

- 〈1〉荆山記
- 〈2〉不詳
- 〈3〉南北朝(青山)
- 〈4〉なし
- 〈5〉〈芸文類聚〉卷9・水部下・湖
(注)〈太平御覧〉には同じ文が「荆州記」として引かれている(中津濱)

* [荆山圖]

〈太平御覧〉卷9

- 〈6〉なし
- 〈7〉青山
- 〈8〉

050610

- 〈1〉宗淵麓山記
- 〈2〉宗淵〔伝不詳〕
- 〈3〉不詳
- 〈4〉なし
- 〈5〉〈太平御覧〉卷49
- 〈6〉玉統(1)
- 〈7〉青山
- 〈8〉

050611

- 〈1〉袁山松宜都山川記
- 〈2〉袁山松→050608
- 〈3〉東晋
- 〈4〉なし
- 〈5〉〈太平御覧〉他
- 〈6〉「漢魏遺書鈔」、劉緯毅
- 〈7〉章、丁、文、吳、黄、青山
- 〈8〉輯逸篇は一部に限った

050612

- <1> 李氏宜都山川記一卷
- <2> 李氏〔伝不詳〕
- <3> 不詳
- <4> 新唐：李氏宜都山川記一卷
- <5> なし
- <6> なし
- <7> 青山
- <8>

050613

- <1> 湘中山水記三卷
- <2> 羅含〔301?～385? (77才)〕
 - ：字君章。桂陽耒陽（湖南省）の人。「所著文章行於世」。
 - ：隋志・集・別集：晉中散大夫羅含集 三卷
 - ：晋書卷92 文苑伝本伝
- <3> 東晋
- <4> 宋志：羅含湘中山水記三卷
 - 直齋：湘中山水記三卷 晉耒陽羅含君章撰范陽盧拯注其書頗及隋唐以後事則亦後人附益也
- <5> <太平御覽> 他
- <6> 麓山、劉緯毅
- <7> 章、丁、吳、黃、青山
- <8> 輯逸篇は省略した

[0507] 陝西甘肅

050701

- <1> 華山記
- <2> 不詳
- <3> 不詳
- <4> 直齋：華山記一卷 不知名氏
- <5> <芸文類聚> 卷7、卷63、卷82、卷87
 <初学記> 卷5(5)、卷27、卷28
 <白孔六帖> 卷5
 <太平御覽> 卷39(2)、卷179、卷861、卷964、卷971、卷999
 <史記・正義> 卷69
 <太平寰宇記> 卷29(4)
- <6> なし
- <7> 青山
- <8>

050702

- <1> 華山精舍記
- <2> 張光祿〔生卒年不詳〕：伝不詳
- <3> 不詳
- <4> 隋志：華山精舍記一卷 張光祿撰
 通志：華山精舍記一卷 張光祿撰（釋家類）
- <5> <太平御覽> 卷46
- <6> なし
- <7> 章
- <8>

050703

- <1> 西岳記
- <2> 不詳
- <3> 南北朝？（青山）
- <4> なし
- <5> <北堂書鈔> 卷152
 <初学記> 卷24
- <6> なし
- <7> 青山
- <8>

050704

<1> 傅玄華嶽銘序

<2> 傅玄〔217～278〕

：字休奕。北地泥陽（陝西省）の人。官は司隸校尉に至る。

：隋志・子・雜家：傅子 一百二十卷 晉司隸校尉傅玄撰

・集・別集：晉司隸校尉傅玄集 十五卷 梁五十卷 録一卷 亡

・集・総集：相風賦 七卷 傅玄等撰

：晋書卷47本伝

<3> 東晋

<4> なし

<5> <芸文類聚> 卷8

<6> なし

<7> 文

<8>

050705

<1> 九嶷山記

<2> 王方慶：〔?～唐長安2（702）〕

：本名は綝。字の方慶で知られる。著書二百余篇あるも、諸子が業を修めなかったの
で散逸した。

：旧唐書卷89本伝、新唐書卷116本伝

<3> 唐

<4> 新唐：王方慶九嶷山記十卷

<5> なし

<6> なし

<7> 青山

<8>

[0508] 広東西

050801

<1> 袁彦伯羅浮山記

<2> 袁宏、字彦伯〔晋咸和3(328)～晋太元元(376)、49才〕

：陳郡扶楽（河南省）の人。東晋の東陽太守に至った。

隋書經籍志・經・孝經：集議孝經 一卷 晋東陽太守袁敬仲撰

同 ・史・古史：後漢紀 三十卷 袁彦伯撰

同 ・史・雜伝：正始名士傳 三卷 袁敬仲撰

同 ・集・別集：晋東陽太守袁宏集 十五卷 梁二十卷 録一卷

：晋書卷92 文苑伝本伝

晋書卷95 芸術伝単道開伝に記事あり

<3> 東晋

<4> なし

<5>

* [袁彦伯羅浮山疏]

〈芸文類聚〉卷7

〈白孔六帖〉卷5

* [袁彦伯羅山疏]

〈太平御覽〉卷176、卷759

〈元和郡縣圖志〉卷34

* [羅浮山記]

〈北堂書鈔〉卷108

〈芸文類聚〉卷7、卷89

〈初学記〉卷28

〈太平御覽〉卷10、卷41、卷66、卷71、卷472、卷582、卷685、卷757、
卷811、卷957、卷960、卷961(2)、卷963、卷975、卷993、
卷999

〈太平寰宇記〉卷160(2)

〈文選・李善注〉卷26

〈事類賦・注〉卷3、卷11

<6> なし

<7> 章、丁、文、秦、吳、黄、青山

<8>

：参考：

〈水經注〉卷29に、書名として「羅浮山記」あり。

050802

<1> 竺法眞登羅山疏

<2> 竺法眞〔伝不詳〕

<3> 不詳

<4> なし

<5> <太平御覧> 卷 71、卷 900、卷 919、卷 928 (2)、卷 949、卷 963、卷 971、卷 981、
卷 982 (2)

<齊民要術> 卷 10

* [竺法眞登羅浮山記]

<太平御覧> 卷 924

* [竺法眞登羅浮山疏]

<太平御覧> 卷 972

* [羅浮山疏]

<太平御覧> 卷 971

<6> なし

<7> 章、丁、文、青山、樂調甫

<8>

050803

<1> 徐道覆羅浮山記

<2> 徐道覆 [伝不詳]

<3> 唐? (青山)

<4> なし

<5> <太平寰宇記> 卷 160

<6> なし

<7> 青山

<8>

050804

<1> 廣州山川記

<2> 不詳

<3> 不詳

<4> なし

<5> <太平寰宇記> 卷 157

<6> なし

<7> 青山

<8>

[0509] 四川雲南

050901

- 〈1〉 青城山記一卷
- 〈2〉 杜光庭→050503
- 〈3〉 五代
- 〈4〉 直齋：青城山記一卷 蜀道士杜光庭撰
郡齋：青城山記一卷 右偽蜀杜光庭賓聖撰。集蜀山若水在青城山者、悉本道家方士之言。
宋志：青城山記一卷
- 〈5〉 なし
- 〈6〉 『説郛』 卷4（4）
- 〈7〉 なし
- 〈8〉 輯逸篇では省略した。

050902

- 〈1〉 巴南山川記
- 〈2〉 不詳
- 〈3〉 不詳
- 〈4〉 なし
- 〈5〉 〈太平御覧〉 卷977
- 〈6〉 劉緯毅（1）
- 〈7〉 青山
- 〈8〉

[0510] 江西

051001

<1> 廬山略記（釋慧遠廬山記、遠法師廬山記）

<2> 釋惠遠〔咸和9（334）～義熙12（416）、83才〕

：俗姓賈、雁門樓煩（山西省）の人。東晋の高僧で、道安に仕え、のち廬山で東林寺を經營した。念仏結社「百蓮社」を結成、中国浄土教の源流の一つをなした。

木村英一編『慧遠研究～遺文篇』（創文社、1960）

：高僧伝巻6、東林十八高賢伝

<3> 東晋

<4> なし

<5> <北堂書鈔> 卷151

<芸文類聚> 卷7

<白孔六帖> 卷5（2）

<太平御覽> 卷41

<水經注> 卷39

<世說新語・注> 規箴第10。

<文選・李善注> 卷12、

<文選・六臣注> 卷22、卷26

<6> 存

：趙宋陳舜俞「廬山記」（四庫全書本）に収録
全晋文

木村前掲書（遺文篇）

<7> 章、丁、文、秦、吳、黄、青山

木村英一編『慧遠研究～研究篇』他

<8>

：参考：「遊廬山詩（廬山東林雜詩）」

051002

<1> 遠法師遊山記

<2> 慧遠→051001

<3> 東晋

<4> なし

<5> <太平御覽> 卷41

* [法師遊山記]

<世說新語・注> 規箴第10。

<6> 全晋詩

木村前掲書（遺文篇）

<7> 木村前掲書（研究篇）他

<8>

051003

<1> 周景式廬山記

<2> 周景式：伝不詳：「宋齊の間の人」

：太平御覧巻910に『周景式孝子傳』を引き、「嘗至綏安縣途逢徒逐猴」とある。「綏安縣」は南北朝期には三ヶ所あり、その設置が「晋の安帝」「宋の武帝」「蕭齊」の各時期であることから、樂調甫は、「宋齊の間の人」と判断している。

<3> 東晋～劉宋（青山）

宋齊の間（樂調甫）

<4> なし

<5> <北堂書鈔> 卷151、卷158

<芸文類聚> 卷7、卷8、卷9、卷87、卷88、卷96

<初学記> 卷7（2）、卷8、卷28（2）

<白孔六帖> 卷5（2）

<太平御覧> 卷41、卷70、卷170、卷892、卷934、卷963、卷972、卷994

<水經注> 卷39（2）

<太平寰宇記> 卷111

<齊民要術> 卷4

<6> なし

<7> 章、青山、樂調甫

<8>

051004

<1> 張野廬山記

<2> 張野〔永和6（350）～義熙14（418）、69才〕

：晋書隱逸伝陶潜伝に「其郷友張野」とある。

：「永樂大典」6339引「江州記」に、「張野、字萊民、詮族也。徙家柴桑與陶潜通姻。學兼華竺、州舉秀才。南中郎府功曹州治中。後徵散騎常侍、卒不就、躬耕樂道、號東臯春農入惠遠蓮社。遠之葬、謝靈運作銘、野序焉。年六十九卒。有廬山記、行於世」とある。

：「世説新語・注」文学第四・61に〔張野遠法師銘〕あり。

：東林蓮社十八高賢傳

<3> 東晋

<4> なし

<5> <芸文類聚> 卷7

<白孔六帖> 卷5

<太平御覧> 卷8

<6> なし

<7> 章、文、秦、青山

<8>

051005

<1> 劉遺民廬山記

<2> 劉程之、号遺民〔永和8(352)～義熙6(410)、59才〕

：全晋文に「程之、字仲思。彭城人。漢楚元王之後。初爲府參軍、歷宜昌柴桑令、去職。與周續之陶潛不應徵命、號尋陽三隱。劉裕以其不屈、旌其號曰遺民。有玄譜一卷、集五卷。」とある。

「大藏經・輦」9に劉遺民の「廬山精舍誓文」がある。

：東林蓮社十八賢傳

<3> 東晋から劉宋

<4> なし

<5> <北堂書鈔> 卷151

<6> なし

<7> 文、青山

<8>

051006

<1> 王彪之廬山記

<2> 王彪之

：晋永和中に、廷尉として揚州刺史殷浩に書簡を出す。

(三国志卷21 魏書劉劭傳・裴注)

<3> 晋?

<4> なし

<5> <北堂書鈔> 卷158

* [王彪之・廬山賦序]

<水經注> 卷39

<6> なし

<7> 文

<8>

：参考：

* [王彪之・賦]

<文選・李善注> 卷46

* [王彪之・遊仙詩]

<文選・李善注> 卷22

051007

<1> 廬山記

<2> 無記名

<3> 不詳

- <4> なし
- <5> <北堂書鈔> 卷 138、卷 150、卷 157
 <芸文類聚> 卷 89
 <太平御覽> 卷 41、卷 991、卷 992

<6> なし

<7> なし

<8>

：参考：

<北堂書鈔> 卷 158 に〔廬山南嶺精舍記〕がある。

051008

<1> 伏滔遊廬山序

<2> 伏滔〔317?～396?〕

：字玄度。平昌安丘（山東省）の人。桓温に親任され、のちに著作郎となる。

隋志・集・別集：晉伏滔集 十一卷 並目錄 梁五卷 録一卷

：晋書卷 92 文苑伝本伝

<3> 東晋

<4> なし

<5> <芸文類聚> 卷 7

<6> なし

<7> 文

<8>

051009

<1> 張密廬山雜記一卷

<2> 張密〔伝不詳〕

<3> 不詳

<4> 新唐：張密廬山雜記一卷

<5> なし

<6> なし

<7> 青山

<8>

051010

<1> 宗敬微廬山記

<2> 宗敬微→050603

<3> 齊?

<4> なし

<5> なし

：南齊書卷 54 高逸伝本伝並びに南史卷 75 隱逸上本伝に「著衡山廬山記」とある。

- <6> なし
- <7> 青山
- <8>

051011

<1> 幕阜山記

<2> 葛洪〔283?～343?〕

：字稚川、丹陽句陽（江蘇省）の人。推挙されたが就かず、抱朴子と号して羅浮山に籠もって鍊丹につとめた。

：隋志・經・礼　：喪服変除　一卷　晉散騎常侍葛洪撰

・史・雜史：漢書鈔　三十卷　晉散騎常侍葛洪撰

・子・道家：抱朴子内篇　二十一卷　音一卷　葛洪撰

・子・雜家：抱朴子外篇　三十卷　葛洪撰　梁有五十一卷

：晉書 72 本伝

<3> 晋

<4> 直齋：幙阜山記卷一　葛洪撰其山在豫章

<5> <太平寰宇記> 卷 113

<6> なし

<7> 文、秦、吳、黄、青山

<8>

051012

<1> 玉笥山記

<2> 令狐見堯〔伝不詳〕

<3> 唐

<4> 直齋：唐道士令狐見堯撰山在新淦別本又在南唐及本朝事後人所益也

<5> <太平御覽> 卷 41 地部。

<6> なし

<7> 青山

<8>

[0550] 四瀆海湖

055001

- <1> 四海圖
- <2> 不詳
- <3> 不詳
- <4> なし
- <5> <文選・李注・衡曰> 卷15
- <6> なし
- <7> 章
- <8>

055002

- <1> 海賦圖
- <2> 陸綏〔生卒年不詳〕
 - : 劉宋の人。探微の子。よく仏像人物を描き、時に画聖と称せらる。
 - : 古画品録
- <3> 劉宋
- <4> なし
- <5> <文選・李善注> 卷12
- <6> なし
- <7> なし
- <8>

055003

- <1> 海潮賦圖
- <2> 盧肇〔生卒年不詳〕
 - : 字は子発。宜春の人。会昌中（841～846）の進士。官は歙宣言池吉四州刺史に至る。
 - : 著に『文標集』がある。
 - 「袁州二唐人集 清胡思敬輯：文標集三卷補遺一卷附校勘記一卷 唐盧肇撰」
（「豫章叢書」所収）
- <3> 唐
- <4> 宋志：盧肇海潮賦 一卷
- <5> なし
- <6> なし
- <7> なし
- <8>

055004

〈1〉寶叔蒙海濤志

〈2〉寶叔蒙〔伝不詳〕

：寶蒙であれば、『四庫提要』に「述書賦二卷 唐寶泉撰寶蒙注」とあり、「蒙字子全泉之兄官至試國子司業兼太原縣令」とある。

〈3〉唐？

〈4〉直齋：海濤志一卷 唐寶叔蒙撰

〈5〉なし

〈6〉なし

〈7〉なし

〈8〉

055005

〈1〉開河記

〈2〉不詳

〈3〉不詳

〈4〉宋志：煬帝開河記一卷 不知作者

〈5〉なし

〈6〉なし

〈7〉なし

〈8〉

055006

〈1〉河洛記

〈2〉不詳

〈3〉不詳

〈4〉劉緯毅 (2)

〈5〉〈太平御覽〉卷 936、卷 959

〈6〉なし

〈7〉なし

〈8〉

055007

〈1〉九江圖

〈2〉張須無 (張須元)〔生卒年不詳〕

：南陽宛 (河南省) の人。

東晋の桓玄が建康を落ち延びる際 (405) に、胡蕃の忠誠ぶりを「張須無」なる人物に語った記事が「宋書卷 50 胡蕃伝」にある。

また、梁の処士張孝秀〔蕭齊建言 3 (481) ～普通 3 (522)、42 才〕の曾祖父に

「張須無」があり、「別駕從事」であった（南史卷 76 隱逸伝下張光秀伝）。
：〈史記・正義〉には〔張鎮九江圖〕、〈史記・索隱〉には〔張漬九江圖〕とする。

<3> 東晋～宋？

<4> 隋志：江圖一卷 張氏撰

新唐：江圖二卷

<5>

* [張須九江圖]：

〈通典〉州郡門・注

* [張須元九江圖]：

〈資治通鑑・胡三省注〉劉宋泰始二年条

* [張須元縁江圖]：

〈經典積文〉卷第 3

〈尚書注疏〉卷第 6

* [九江圖經]

〈太平御覽〉卷 65

* [九江記]

〈太平御覽〉卷 48、卷 66

* [九江録]

〈太平御覽〉卷 176

* [江圖]：

〈文選・注〉卷

〈太平寰宇記〉嶺南西道〉

<6> 劉緯毅

<7> 章、文、秦

0 5 5 0 0 8

<1> 庾仲雍江記

<2> 庾仲雍〔伝不詳〕

：隋志：湘州記 二卷 庾仲雍撰

<3> 不詳

<4> 隋志：江記五卷

旧唐：江記五卷 庾仲雍撰

新唐：庾仲雍江記五卷

通志：江記五卷 庾仲雍撰

<5> 〈水經注〉卷 35 (2)

* [庾仲雍江圖]

〈文選・李善注〉卷 22、卷 27

* [庾仲雍江水記]

〈太平寰宇記〉卷 113

<6> なし

<7> 章、文

<8>

: 参考:

* [江記]

<初学記> 卷 8

0 5 5 0 0 9

<1> 尋江源記

<2> 庾仲雍→0 5 5 0 0 8

<3> 不詳

<4> 隋志: 尋江源記一卷

旧唐: 尋江源記五卷 庾仲雍撰

新唐: 尋江源記五卷

<5> <太平御覽> 卷 167 (2)

<太平寰宇記> 卷 149

* [尋江記]

<太平御覽> 卷 171

* [江源記]

<太平御覽> 卷 44、卷 49、卷 166

<太平寰宇記> 卷 105 (2)、卷 148、卷 149、補卷 113

<6> 玉函

<7> なし

<8>

0 5 5 0 1 0

<1> 庾仲雍漢水記

<2> 庾仲雍→0 5 5 0 0 8

<3> 不詳

<4> 隋志: 漢水記五卷 庾仲雍撰

旧唐: 漢水記五卷 庾仲雍撰

新唐: 庾仲雍漢水記五卷

<5> <初学記> 卷 7

<史記・索隱> 卷 2

* [漢水記]

<芸文類聚> 卷 9

<初学記> 卷 8 (2)

<太平御覽> 卷 70、卷 762

<太平寰宇記> 卷 133、卷 141

(注) <水經注> 卷 28 沔水注に書名の記載有り

<6> なし

<7> 文

<8>

055011

- <1> 淮地記
- <2> 不詳
- <3> 不詳
- <4> なし
- <5> <太平御覽> 卷 882
- <6> なし
- <7> なし
- <8>

055012

- <1> 虞仲翔川瀆記
- <2> 虞仲翔〔伝不詳〕
- <3> 不詳
- <4> なし
- <5> <太平寰宇記> 卷 94
- <6> なし
- <7> 章
- <8>

055013

- <1> 洞庭記
- <2> 不詳
- <3> 不詳
- <4> なし
- <5> <太平寰宇記> 補卷 113
 <岳陽風土記>
- <6> 麓山 (1)、玉函 (1)
- <7> なし
- <8>

055014

- <1> 張又新煎茶水記
- <2> 張又新〔伝不詳〕
- <3> 不詳
- <4> <太平寰宇記> 卷 92
- <5> なし

- <6> なし
- <7> なし
- <8>

055015

- <1> 杜寶水飾圖
- <2> 杜寶
 - : 「太平広記」巻226 伎巧類二「水飾圖經」に「煬帝別勅學士杜寶修水飾圖經十五卷(出大業拾遺)」とあり、その経緯を説く。
 - : 隋志・子・小説：水飾一卷
- <3> 隋～唐？
- <4> 隋志：水飾圖 二十卷
通志：水飾圖 二十卷
- <5> 玉函は、「太平広記」の全文を『水飾 隋 杜寶撰』として収録。
- <6> <太平広記> 巻226
- <7> 章、姚
- <8>

055016

- <1> 釋道安四海百川水源記一卷
- <2> 釋道安〔312～385〕
 - : 俗姓衛氏。常山扶柳（河北省）の人。
 - : 高僧傳巻5
- <3> 東晋
- <4> 隋志：四海百川水源記一卷 釋道安撰
旧唐：四海百川水記一卷 釋道安撰
新唐：僧道安四海百川水源記一卷
通志：四海百川水源記一卷 晉僧道安撰
- <5> なし
- <6> なし
- <7> 章、丁、吳、黄、青山
- <8>

055017

- <1> 賈耽吐蕃黄河録四巻
- <2> 賈耽〔730～805〕
 - : 字は敦詩。南皮の人。天寶中（742～755）に明経に推挙され、貞元中（785～804）に同中書門下平章事を任せられる。順宗の時（805）に左僕射となる。
 - : 新唐・史・地理：賈耽地圖一卷、又皇華四達記十巻、古今郡國縣道四夷述四十巻、

關中隴右山南九州別錄六卷、貞元十道錄四卷

：旧唐書卷 138 本伝、新唐書卷 166 本伝

内藤湖南「賈魏公年譜」『小川博士還暦記念史学地理学論叢』

- <3> 唐
- <4> 新唐：吐蕃黄河録四卷
- <5> なし
- <6> なし
- <7> 青山
- <8>

055018

<1> 李吉甫刪水經十卷

<2> 李吉甫〔758～814〕

：字は弘憲。趙郡（河北省）の人。

中国現存最古の総誌である『元和郡縣圖志』40 卷がある。

：新唐・史・地理：元和郡縣圖志五十四卷、又十道圖十卷、古今地名三卷

：旧唐書卷 148 本伝、新唐書卷 146 本伝

- <3> 唐
- <4> 新唐：李吉甫…又…刪水經十卷
- <5> なし
- <6> なし
- <7> 青山
- <8>

055019

<1> 古嶽瀆經

<2> 不詳

<3> 不詳

<4> なし

<5> <太平寰宇記> 卷 16

<6> なし

<7> なし

<8>

055020

<1> 譚子和海嶠志

<2> 譚子和〔伝不詳〕

<3> 不詳

<4> なし

<5> <太平寰宇記> 卷 157

<6> なし
<7> なし
<8>

漢唐地理書輯逸（稿）（その1）

～起漢至唐五岳四瀆諸名山川書 篇～

薄井 俊二

凡例

一、本稿は、漢代から唐代に至る間に作られたとされる「地理書」のうち、山岳や河川を対象として著述された「山川志」の類の資料について、諸書に引用されて残っている逸文を蒐集整理したものである。

一、本輯逸の構成は、王謨の『漢唐地理書鈔』を参考にし、若干の補足訂正を加えることとする。

即ち、全体の構成としては、同書の嘉慶十六年（1811）の凡例に付された目録（以下「初本目録」と略称）が、それぞれの資料の内容に基づく「十二門類」に分類しているものに従うこととする。ちなみに、「山川」を著述の範囲とする地理書を扱う本稿においては、同書の「五岳四瀆及諸名山川書記」の部分に収録されている資料を中心として輯逸作業を行っている。

なお、「初本目録」の構成と収録資料数は次の通り。

〈漢唐地理書鈔初本目録〉

01	天文星野及五帝三王地理書記	－45種
02	起秦漢訖隋唐歷朝地理書記	－35種
03	漢魏訖唐諸州地理書記	－45種
04	漢魏訖唐諸郡國地理書記	－172種
05	五岳四瀆及諸名山川書記	－56種
06	歷代都邑宮闕寺廟書記	－18種
07	聖賢墟墓神仙洞府書記	－20種
08	各方故事遺聞稗雜書記	－28種
09	行役征途經涉地理書記	－26種
10	四裔外國地理書記	－35種
11	諸州郡先賢耆舊仙眞傳	－41種
12	各州郡土產異物及本草道地書記	－23種

一、「十二門類」それぞれの内部構成については、地域ごとにまとめることとし、「初本目録」出版後に出された「重訂漢唐地理書鈔」の目録（以下「重訂本目録」と略称）における十区画区分に従う。

なお、「重訂本目録」の構成と収録資料数は次の通りであるが、（第三冊）（第四冊）部分が地域ごとの分類になっており、本稿では、「河北山西（重訂本目録では「直隸山西」とする）」を〔01〕とし、以下〔10〕の「江西」までの十部構成とする。

〈漢唐地理書鈔重訂本目録〉

（第一冊）

天文星野及五帝三王地理書目	－36種
---------------	------

（第二冊）

起秦漢訖隋唐歷朝地理書目	－33種
--------------	------

(第三冊)

01 直隸山西古地理書目	- 34種	*本稿では「河北山西」とする
02 山東古地理書目	- 13種	
03 河南古地理書目	- 23種	
04 兩江古地理書目	- 47種	
05 浙閩古地理書目	- 23種	

(第四冊)

06 湖南北古地理書目	- 40種	
07 陝甘古地理書目	- 23種	*本稿では「陝西甘肅」とする
08 廣東西古地理書目	- 27種	
09 四川雲貴古地理書目	- 29種	
10 江西古地理書目	- 35種	

一、収録資料のそれぞれには、六桁の整理番号を付すが、それぞれの意味するところは次の通りである。

初めの二桁の番号は、「初本目録」における「十二門類」を示す。本稿は「五岳四 及諸名山川書記」なので、それに相当する〔05〕がつくことになる。

次の二桁の番号は、記述されている地域を示す。それぞれの番号と地域の対応は、上記凡例に記した「重訂本目録」による。

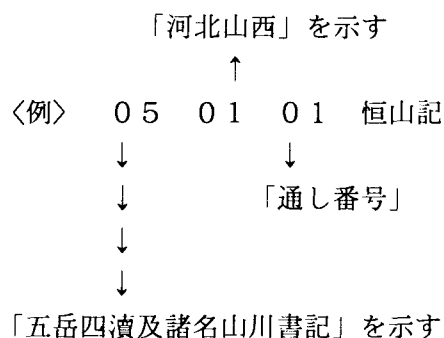
ただし、山岳や河川の場合は、政治的な区域に収まりきれない場合がある。またいくつかの名山や河川を総括的に述べる場合もある。そこで本目録では、次のような特例を設けることとした。

①五岳や複数の名山を集めた文献には〔00〕の番号を与える。

②河川や海湖を対象とした文献は、地域ごとに分けずにすべて〔50〕の番号を与える。

③山岳や河川にわたって記したものであっても、特定の地域に限定して記述しているものは、他の資料同様「重訂本目録」の地域に対応した番号を与える。

最後の二桁の番号は、それぞれのカテゴリーの内部における通し番号である。



一、逸文所収資料の主なものと略称は次の通り。

- 「尚書・正義」「經典釈文」
- 「史記・三家注」「後漢書・李賢注（注と略称）」「続漢書志・劉昭注（注と略称）」
- 「三国志・裴松之注（注と略称）」
- 「水経注」「元和郡県志」「太平寰宇記」「通典」
- 「齊民要術」
- 「文選・李善注」「文選・六臣注」「世説新語・劉孝標注（注と略称）」
- 「事類賦・注」
- 「北堂書鈔」「芸文類聚」「北堂書鈔」「初学記」「白孔六帖」「太平御覽」

同一書と同じ巻に複数収録されている場合は、（ ）で件数を記した。

また、異名もしくは同一書の誤りと思われるもの、著者名を記さないが明らかに当該資料と思われるものは、*印を記し、*〔廬山記〕のごとく別記した。

一、既刊の輯逸本の主なものと略称は次の通り。

- ・「説郛」（元陶宗儀輯編）
- ・王謨「漢唐地理書鈔」（中華書局、1961年） …「現行本地理書鈔」と略称。
- ・陳運溶「麓山精舎輯本」（中華書局版「漢唐地理書鈔」に併録） …「麓山」と略称。
- ・王仁俊「玉函山房輯佚書補編」（上海古籍出版社、1989年） …「補玉函」と略称。
- ・朱祖延「北魏佚書考」（中州古籍出版社、1985年）
- ・劉緯毅『漢唐方志輯逸』（北京図書館出版社、1997） …「劉緯毅」と略称。

一、資料についての言及論文などには、次のものがある。

- ・章宗源「隋書経籍志考証」（「二十五史補篇」第四冊所収） …「章」と略称。
- ・姚振宗「隋書経籍志考証」（「二十五史補篇」第四冊所収） …「姚」と略称。
- ・丁國鈞「補晋書芸文志」（「二十五史補篇」第三冊所収） …「丁」と略称。
- ・文廷式「補晋書芸文志」（「二十五史補篇」第三冊所収） …「文」と略称。
- ・秦栄光「補晋書芸文志」（「二十五史補篇」第三冊所収） …「秦」と略称。
- ・呉士鑑「補晋書経籍志」（「二十五史補篇」第三冊所収） …「呉」と略称。
- ・黄逢元「補晋書芸文志」（「二十五史補篇」第三冊所収） …「黄」と略称。
- ・青山定雄「支那の山川志～宋代以前～」(「龍谷学報」第332号、1942)
…「青山」と略称。
- ・樂調甫「齊民要術引用書目考証」『齊民要術考証』（文史哲出版社、1994）
…「樂調甫」と略称。

漢唐地理書輯逸（稿）（その1）

～起漢至唐五岳四瀆諸名山川書篇～

[0500] 五岳諸名山

050001 五岳真形圖

1)

洞天所在之處其下別有日月分精以照其中龍橋處二山相去百餘步其峯危竦相對橋有峯首其橋
中半漸漸促小可六七寸長一丈五尺兩邊懸崖俯臨不測山傍有誓石天師張道陵與鬼兵爲誓朱筆
畫山青崖中絕今驗斷處石並丹色闊二十丈深六七丈望之絕然

〈太平御覽〉卷 44 地部 9・青城山

2)

東岳太山戴倉碧七稱之冠南岳衡山戴九丹日精之冠中岳嵩山冠黃玉太玄之冠西岳華山建太初
九流之冠北岳恒山建太冥靈陰之冠青城丈人戴蓋天之冠

〈太平御覽〉卷 675 道部 17・冠

3)

五岳使者服緋襜

〈太平御覽〉卷 675 道部 17・襜

4)

東岳君服朱光袍

〈太平御覽〉卷 675 道部 17・袍

* [五岳真形圖經]

1)

若道士得秘聖之經皆當杜秘於一人之口者即真靈之文將墜於獨見何緣得存於永代乎傳授但當
必得其人豈可秘而不出是斯永翳也

〈太平御覽〉卷 678 道部 20・傳授上

* [五岳真圖]

1)

太山君佩通陽大明之印衡山君佩夜光天真之印嵩山君佩神宗陽和之印華山君佩開天通真之印
恒山君佩長津悟真之印青城丈人佩三庭之印

〈太平御覽〉卷 676 道部 18・簡章

* [五岳圖序]

1)

括蒼山東岳之佐命

〈太平御覽〉卷 47 地部 12・括蒼山

* [五岳圖]

1)

青城山洞周二千里蜀郡界黃帝拜五爲岳丈人

〈太平御覽〉卷 663 道部 5・地仙

2)

恒山高三千九百丈七尺上方三十里周迴三千里有太玄之泉神草十九種服之可度世

〈初學記〉卷 5 地理上・恒山第 6

* [五岳山名圖]

1)

性命魂神之所屬皆有理所

〈太平御覽〉卷 674 道部 16・理所

050002 名山略記

1)

羅浮山有阿育王塔三十二所雜道書。

〈太平御覽〉卷 41 地部 6・羅浮山

2)

小白山在會稽陽城趙廣信以魏末入小白山受李氏服氣法又師左元放受守中之道後鍊九華丹丹成服之太一遣迎今在東華宮爲真人

〈太平御覽〉卷 47 地部 12・小白山

3)

僧權道人居晉安霍山晨出澗忽見白水異常飲之甘如體水過甚迅器取得少許以餉陶晉安不復中飲權壽百三十歲不知其終

〈太平御覽〉卷 59 地部 24・水下

4)

鬱州道祭酒徐誕常以治席爲事有吳人姓夏侯來師誕忽暴病死終冬涉春有長沙門從北來於道中見夏侯云被崑崙召不得辭師寄手巾爲信誕得手巾乃本所送入棺者

〈太平御覽〉卷 716 服用部 18・手巾 三 p3176

5)

鬱州山出茯苓

〈太平御覽〉卷 989 藥部 6・茯苓 四 4376

6)

天台山在剡縣即是衆聖所降葛仙公山也

〈藝文類聚〉卷 7 山部上・天台山

〈白孔六帖〉卷 5

天台山即是定光寺諸佛所降葛仙公山也

〈文選〉卷 11・遊天台山賦・李善注

7)

九疑山漢末有張禮正魏時有治明期南遊九疑禮正服黃精明期服澤寫柏實後俱適西城君受虹景方兼以守一內外洞澈東華迎而乘雲升天

〈藝文類聚〉卷 7・山部上・九疑山

〈白孔六帖〉卷 5

8)

鬱州出天門冬

〈藝文類聚〉卷 81・藥香草部上・天門冬

9)

赤城山一名燒山東卿司命君所居洞周回三百里上有玉清平天

〈初學記〉卷 8・江南道第 10・赤城山

赤城山丹山洞周三百里名曰上清玉平天此山下洞臺方二百里司命君之府也〔名山記〕

〈太平御覽〉卷 674・道部 16・理所

10)

有長山在東北縣因之爲名（以下は違うか？）隋改長山爲金華

〈太平寰宇記〉卷 97・江南東道 9・婺州・金華縣 一 p732

*〔名山記〕

1)

北接嵯峨南接峩峩東至成都山形似城其山有赤壁張天師所治處今遺跡猶存

〈太平御覽〉卷 663・道部 5・地仙 p2959

2)

岳洞方百里在終南太一間或名桂陽宮多諸靈異王屋山洞周迴萬里名曰小有清虛天按王君內傳云在河內沁水縣界濟水所出之源也北有太行東南有北 嵩山內洞天□日月星辰雲氣草木萬類無異矣宮闕相映金玉鏤飾皆地仙所處即清虛王君所處也

〈太平御覽〉卷 663・道部 5・地仙 p2959

3)

大茅山有小穴口石填之但精心齋戒可得而遊中茅山東亦有小穴穴口如狗竇劣容人入耳愈入愈闊外以盤石掩塞穴口故餘小穿如杯大使山靈守衛之此磐石亦時開發若勤懇齋戒尋之得從而入易於常洞口好道者欲求神仙宜預齋戒則三茅君於句曲見之授以要道入洞門句曲有五門立志齋戒三月尋登此門者可入矣

〈太平御覽〉卷 667・道部 9・齋戒

4)

益州西南青城山一名青城郡山形似城其山有崖舍赤壁張天師所治處南連峨嵋山山遙望唯見兩青嶺山如蚕蛾之眉亦有洞天諸靈書所藏不知當是第幾洞天也

〈太平御覽〉卷 674・道部 16・理所

5)

羅浮山有道士賈鐵臼杵欲合丹未成而仙化

〈太平御覽〉卷七六二・器物部七・臼杵 p3384

6)

狐者先古之淫婦也其名曰紫紫化而爲婦故其名自稱阿紫
〈太平御覽〉卷 909・獸部 21・狐

7)

天姥山上長楓千餘丈肅肅臨澗水
〈太平御覽〉卷 957・木部 6・楓

山上有楓高十餘丈蕭蕭然 [名山志]
〈太平寰宇記〉卷 96・江南東道 8・越州・剡縣
(注) → 0 5 0 0 0 4 にも収録

8)

芙蓉石草多黃連
〈太平御覽〉卷 991・藥部 8・黃連

9)

道士朱孺子吳末入王笥山服菊花乘雲升天
〈太平御覽〉卷 996・百卉部 3・菊

10)

上津天柱山絕巖壁立秀出衆嶺有穴名仙遊洞洞口有竹數莖寒風凜然人不敢入
〈太平寰宇記〉卷 141・山南西道 9・商州・上津縣・天柱山 二 p275

11)

華岳有三峯直上數千仞基廣而峯峻疊秀迄於嶺表有如削成今博山香爐形實象之又華山與首陽本一山當河河神巨靈以手劈開其上以足踏離其下分爲兩山以通河流故掌與脚迹存焉
〈太平寰宇記〉卷 29・關西道 5・華州華陰縣 p247

12)

昔羅浮仙人居此故名
〈太平寰宇記〉卷 120 江南西道 18・涪州涪陵縣

050003 仙人採芝圖

1)

芝生於名山食之令人乘雲能上天觀望八極通見神明鳳凰芝草生於名山之上金玉間文石上陰乾
治食一年令人羽翼皆生壽千歲能乘雲與鳳凰俱

〈太平御覽〉卷 986·藥部 3·芝下

050004 謝靈運遊名山志

[宋謝靈運遊名山志序]

1)

夫衣食生之所資山水性之所適今滯所資之累擁其所適之性耳俗議多云歡足本在華堂枕高漱流者乏於大志故保其枯槁余謂不然君子有愛物之情有救物之能橫流之弊非才不治故有屈己以濟彼豈以名利之場賢於清曠之域耶語萬乘則鼎湖有縱轡論儲貳則嵩山有絕控又陶朱高揖越相留侯願辭漢傳推此而言可以明矣

〈初學記〉卷5 地理上·總載山第2·序

[宋謝靈運名山序]

1)

夫衣食人生之所資山水性分之所適世識多云歡足本在華堂枕巖漱嗽流者之於大志故保其枯槁余謂不然君子有愛物之情有救物之能橫流之弊非才不理故時有屈己以濟彼豈以名利之場賢於清曠之域邪語萬乘則鼎湖有縱轡論儲貳則嵩山有絕控又陶朱高揖越相留侯願辭漢傳推此而言可以明矣

〈藝文類聚〉卷7·山部上·總載山·序 p129

[謝靈運遊名山志]

1)

地肺山者王演山記謂之木榴山一名地肺

〈初學記〉卷5·總載山第2·地肺

2)

吹臺有高桐皆百圍嶧陽孤桐方此爲劣

〈初學記〉卷28·桐第16·敘事

3)

新溪蛎味偏甘有過紫溪者

〈太平御覽〉卷942·鱗介部14·蛎

4)

永寧安固二縣中路東南便是赤石又枕海 [靈運遊名山志]

〈文選〉卷22 遊覽·謝靈運遊赤石進帆海詩·題·李善注 p301

5)

湖三面悉高山枕水渚山溪澗凡有五處南第一谷今在所謂石壁精舍

〈文選〉卷22 遊覽·謝靈運石壁精舍還湖中作詩·題·李善注 p301

6)

石門澗六處石門溯水上入兩山口兩邊石壁右邊石巖下臨澗水 [靈運遊名山志]

〈文選〉卷 22 遊覽・謝靈運登石門最高頂詩・題・李善注 p302

7)

神子溪南山與七里山分流去斤竹澗數里

〈文選〉卷 22 遊覽・謝靈運從斤竹岡詩・題・李善注 p302

8)

桂林頂遠則嵒尖疆中

〈文選〉卷 25 贈答・謝靈運・登臨海嶠初發疆中作與從弟景惠連見羊何共和之詩・題・李善注 p352

9)

從臨江樓步路南上二里餘左望湖中右傍長江也

〈文選〉卷 25 贈答・謝靈運・登臨海嶠初發疆中作與從弟景惠連見羊何共和之詩・江樓・李善注 p352

10)

始寧又北轉一汀七里直指舍下園南門樓自南樓百許步對橫山

〈文選〉卷 30 雜・謝靈運南樓中望所遲客詩・題・李善注 p414

11)

破石溪南二百餘里又有石帆脩廣與破石等度質色亦同傳云古有人以破石之半爲石帆故名彼爲石帆此名破石

〈藝文類聚〉卷 8・山部下・石帆山 p143

* [謝靈運名山志]

1)

石門山兩巖間微有門形故以爲稱瀑布飛瀉丹翠交曜

〈藝文類聚〉卷 8・山部下・石門山

2)

步廊山在州東北二百二十里從瑞安江入遠望如有屋宇之形因而名之見謝靈運名山誌

〈太平寰宇記〉卷 99・江南東道 11・温州瑞安縣步廊山 上 p743

(注)「謝校注」は「步廊山遠望如有屋宇之形因而名之」のみ謝の本文とする p274

* [謝靈運記]

1)

凡此諸山多龍鬚草以爲攀龍而墜化爲此草又有孤石聳土特起高三百丈以臨水綿連數千峯或似羊角之狀

〈太平寰宇記〉卷 99・江南東道 11・處州麗水縣縉雲山

龍鬚草□東陽永嘉有永嘉有縉雲堂意者謂鼎湖攀龍鬚時有墜落化而爲草故有龍鬚之稱

[遊名山志]

〈太平御覽〉卷 994・百卉部 1・龍鬚

* [遊名山志]

1)

芙蓉渚有聳石頭如初生芙蓉色皆青白

〈太平御覽〉卷 52・地部 17・石下

2)

樓石山多支子也

〈太平御覽〉卷 959・木部 8・支子

3)

樓石山多章枕皆爲三四五圍

〈太平御覽〉卷 960・木部 9・枕

4)

赤巖山水石之間唯有甘蕉林高者十丈

〈太平御覽〉卷 975・果部 12・甘蕉

5)

名室藥多黃精

〈太平御覽〉卷 989・藥部 6・黃精

6)

泉山竹際及金州多麥門冬

〈太平御覽〉卷 989・藥部 6・麥門冬

7)

橫山諸小草多芎藭

〈太平御覽〉卷 990・藥部 7・芎藭

8)

泉山多牡丹

〈太平御覽〉卷 992・藥部 9・牡丹

9)

石室紫苑

〈太平御覽〉卷 993・藥部 10・紫苑

10)

石竇山綠崖而上高百許丈裏悉青苔無別草木

〈太平御覽〉卷 1000・百卉部 7

(注) 謝校注、「綠」作「綠」

11)

步廊山有一樹如椒而氣此羅勒土人謂爲山羅勒也

〈齊民要術〉卷 10・菜茹・羅勒

12)

晉謝安適過山上胡有蜜巖之

〈北堂書鈔〉卷 147・酒食部 6・蜜 41・蜜巖 3b

* [遊名山記]

1)

芙蓉山有異鳥愛形顧影不自藏故爲羅者所得人謂鵠

〈太平御覽〉卷 928・羽族部 15・衆鳥

2)

橫陽諸山草多恒山

〈太平御覽〉卷 992・藥部 9・恒山

松陽諸山草多細辛 [名山志]

〈太平御覽〉卷 992・藥部 6・細辛

* [遊名山者]

1)

頂有大湖中有孤巖獨立皆露蜜房漢史朱買臣上書言越王居泉山一人守險千人不得上

〈太平寰宇記〉卷 99・江南東道 11・温州永嘉縣 p742

* [名山志]

1)

華子崗上杉千仞被在崖側

〈太平御覽〉卷 957・木部 6・杉

(注) 謝校注は、謝の「遊名山志」の一つとする

2)

閩中山多仙聖遊集焉

〈太平寰宇記〉卷 86・劍南東道 5・閩中縣 p655

3)

楠溪八百三十里有石室北對清泉高七丈廣十三丈深十六步可座千人狀如龜背有石色黃白扣之

聲如鼓沿山石壁高十二丈故老傳云是石室步廊

〈太平寰宇記〉卷 99・江南東道 11・温州永嘉縣 p742

(注) →050002と重複収録

* [名山記]

1)

孤石干雲高可三百丈黃帝煉丹於此

〈太平寰宇記〉卷 99・江南東道 11・處州・縉雲縣・縉雲山 一 p745

(注) 謝校注は、謝の「遊名山志」の一つとする

050005 山居圖

[謝靈運山居圖]

1)

華子崗麻山第三谷故老相傳華子期者祿里弟子翔集此頂故華子爲稱也

〈文選〉卷26行旅上·謝靈運·入華子崗是麻源第三谷詩·題·李善注 p369

050007 永初山川古今記…〈太平寰宇記〉所収のもののみ収録した

1)

尸鄉有石室有仇生者居焉

又云祝雞翁者洛陽人居尸鄉山下養雞百餘年〔劉澄之永初山川記〕

〈太平寰宇記〉卷5 河南道5・偃師縣・尸鄉 (一) p55

2)

堯先居唐後居陶故曰陶唐氏〔宋永初山川記〕

〈太平寰宇記〉卷13 河南道13・廣濟軍 (一) p122 上

3)

安定昆戎壤也其郡在今原州高平縣後漢永初五年徙其人於美陽以避羌寇郡寄理美陽即今雍州武功縣界美陽故城也永建四年移於今所〔宋永初山川記〕

〈太平寰宇記〉卷32 關西道8・涇州 (一) p272

4)

安邑有昆吾亭古昆吾國也〔宋永初山川記〕

〈太平寰宇記〉卷46 河東道7・安邑縣・昆吾亭 (一) p376

5)

鼓山有石鼓形二所南北相當俗語云南鼓北鼓相去十五里〔宋永初古今山川記〕

〈太平寰宇記〉卷56 河北道五・滏陽縣・鼓山 (一) p447 上

6)

古黎國也詩云黎侯寓於衛衛以中露泥中二邑處之國名也〔劉澄山川記〕

〈太平寰宇記〉卷57 河北道六・黎陽縣・大伾山 (一) p455 上

7)

宛陵北有敬亭山山有神祠即謝眺賽神賦詩之所其神云梓華府君頗有靈驗〔宋永初山川記〕

〈太平寰宇記〉卷103 江南西道1・宣城縣・敬亭山 (二) p23

8)

縣西有羊山山上有然石黃白而理麤以水灌之便熱若石炭以鼎置上烹煮加熟

又曰艾縣有熱泉泉如湯湯以生物投之即爛〔宋永初山川記〕

〈太平寰宇記〉卷106 江南西道4・高安縣・羊山 (二) p48

9)

城中有井井水色二半青半黃黃者如灰汁作飲粥並金色而甚芬香

〈太平寰宇記〉卷109 江南西道7・廬陵縣 (二) p69

10)

禱祈之時有人誤喚奴者則隨其所犯鄉境雨至必見雲開卒無霑潤相傳云王喬既去奴墮於此因爲神至今燥烈不可犯民爲之諱 [山川記]

〈太平寰宇記〉卷 109 江南西道 7・泰和縣・王山 (二) p71

11)

沔口古文以爲滄浪水則屈原遇漁父所云滄浪之水清是也 [永初山川記]

〈太平寰宇記〉卷 131 淮南道 9・漢陽軍・漢水 (二) p217

12)

安陸縣居鄖城 [永初山川記]

〈太平寰宇記〉卷 132 淮南道 10・安陸縣 (二) p219

13)

吉陽縣西有九宗山 [宋永初山川記]

〈太平寰宇記〉卷 132 淮南道 10・孝感縣・九宗山 (二) p220

14)

雲夢澤一名巴邱湖荊州之薺故魏武帝與吳主書赤壁之困過雲夢澤中有大霧遂使失道是此 [宋永初山川古今記]

〈太平寰宇記〉卷 146 山南東道 5・長林縣・雲夢澤 (二) p312

夫差小女年十八童子韓重私悅之王怒女結恨而死葬後重往弔之女形見贈徑寸明珠以贈重 [山川記]

〈太平寰宇記〉卷 91 江南東道 3・吳縣・吳王女墓 (一) p689

臨安縣有石鏡在山之東峯 [山川記]

〈太平寰宇記〉卷 93 江南東道 5・臨安縣・石鏡山 (一) p704

[0501] 河北山西

050101 恒山記

* [晏天王按山記]

1)

高三千九百丈上方三十里周廻三千里上有泰玄之泉神草十九種道者服之成仙

〈太平御覽〉卷39 地部4・恒山

2)

太史公云北岳者有五名一名蘭臺府二名列女宮三名華陽臺四名紫微宮五名太一宮或云太茂山
山北四百餘里號飛狐之口有率然地孫吳論兵勢

〈太平御覽〉卷39 地部4・恒山

050102 恒山圖經

* [常山圖經]

1)

北嶽恒山在縣西北一百四十里

〈太平御覽〉卷39·地部4·恒山

050103 羊頭山記

1)

太學堂洛陽南開陽門外長十丈廣三丈堂前石經四部本碑凡四十八枚西尚書周易公羊十六碑南禮記五碑東論語三碑有諫議大夫馬日碑碑議郎蔡邕銘

〈太平御覽〉卷 176·居處部 4·堂

2)

聖壽堂石虎造垂王佩八百大小鏡二萬枚丁香末爲泥油瓦四面垂金鈴一萬枚去鄴三十里聞響

〈太平御覽〉卷 176·居處部 4·堂

3)

原城西門南角有萬歲樓俗傳飛入江常以鐵鎖維之又樓上時見一道白氣如煙刺史必死輕者貶謫州人至今爲常候

〈太平御覽〉卷 176·居處部 4·樓

4)

衛青破月支月支有井色如酒因名曰酒井

〈太平御覽〉卷 189·居處部 17·井

5)

東阿城北門有大井深七尺煮之得膠貢之

〈太平御覽〉卷 189·居處部 17·井

6)

雍丘縣有神井興霧電享祀不絕

〈太平御覽〉卷 189·居處部 17·井

7)

盤固山有大井銅人嘗守之五十年一踊水起數十丈銅人每以手掩之即止

〈太平御覽〉卷 189·居處部 17·井

8)

零浦有鹽井二十四其一出火筩取密閉万里不滅

〈太平御覽〉卷 189·居處部 17·井

9)

金龍井西京太極殿上有之金龍負山於上兼金鹿盧

〈太平御覽〉卷 189·居處部 17·井

10)

漢有常滿燈不添常滿光明不絕也

〈太平御覽〉卷 870・火部 3・燈

050104 邢子勵龍山記

1)

山東北與軍都西北與飛相接其山石上往往有似仙人及龍跡故以爲名四麓各有一穴大如車輪春則風生東秋出西夏出南冬出北不相奪倫有沙門法猛以夏日入其東穴見石臺石人欲窮諸穴便有人厲聲云法師其餘皆如東者不宜來見穢猛仍愕然不覺身在穴外

〈北堂書鈔〉卷 158 地部 2·穴篇 13

：參考：

* [邢子厲趙記]

1)

龍山有四麓各有一穴大如車輪春風出東秋風出西夏風出南冬風出北不相奪倫

〈史記〉卷 43 趙世家·正義 (中華書局 p1829)

* [邢子勵記]

〈太平寰宇記〉卷 66

* [邢子勵三郡記]

〈太平寰宇記〉卷 66 (3 條)

050106 三晉山險記

1)

山陽縣北有谷通得驢馬石勒十八騎馬昔在此啖梨生樹今有梨園
〈太平御覽〉卷 969・果部 6・梨

* [三晉記]

1)

魏壽餘僞以魏叛士會既濟譟而還今蒲津是也
〈太平寰宇記〉卷 46 河東道 7・蒲州

[0502] 山東

050201 泰山記

1)

泰山廟在山南悉種柏樹千株大者十五六圍長老傳云漢武所種廟及東西房三十餘間並高樓三處春秋饗祀泰山君常在此壇

〈太平御覽〉卷 39·地部 4·泰山

泰山廟在山南悉種柏樹千株

〈初學記〉卷 5·泰山·千樹

山南有太山廟種柏樹千株大者十五六圍長老傳云漢武所植 [太山記]

〈太平御覽〉卷 956·木部 3·柏

山南有太山廟種柏樹千株大者十五六圍長老傳云漢武所種

〈藝文類聚〉卷 88·木部上·柏

山南有太山廟種柏樹千株大者十五六圍長老傳云漢武帝所種 晉有華林園柏二株

〈初學記〉卷 28·柏·泰山千樹 華林二株 [太山記]

2)

山有鍾乳但不好耳 [太山記]

〈太平御覽〉卷 986·藥部 4·石鍾乳

3)

太山西北有長城緣河經千餘里琅邪入海

〈史記〉卷 43·趙世家·正義 [太山記]

太山西有長城緣河經太山餘一千里至琅邪臺入海

〈史記〉卷 69·蘇秦列傳·正義 [太山記]

太山西北有長城緣徑太山千餘里至琅邪臺入海

〈史記〉卷 40·楚世家·正義 [太山郡記]

太山西北有長城緣河經太山千餘里至瑯琊臺入海往往有壁門邸閣四五處猶在史記蘇代說燕王燕王曰齊有長城鉅防足以爲固是也 [太山記]

〈太平寰宇記〉卷 13 河南道 13·鄆州平陰縣·長城 p118

4)

岱宗小天門有秦時五大夫松在

〈藝文類聚〉卷 88·木部上·松

5)

霍山出紫石英好者内朗外明表裏映徹若霍状故名霍山今猶充貢

〈太平寰宇記〉卷 23・河南道 23

6)

東南巖名曰日觀言雞一鳴時見日出秦觀者望見長安吳觀者望見會稽周觀望鎬也黃河去嶽三百餘里望見之如帶

〈白孔六帖〉卷 5・泰山・日觀

050203 劉薈鄒山記

1)

鄒山古之嶧山也孤桐之所植邾文公之所卜山下是鄒縣本是邾國魯穆公改鄒山從邑變故謂鄒山嶧陽猶多桐樹地理志嶧山在鄒縣北繹邑之所依名也山東西二十里南北一十三里高秀獨出積石相臨殆無壤石間多孔穴洞達相通往往有如數間居處其俗謂之嶧孔遭亂輒將居人入嶧外寇雖衆無所施害永嘉中太尉郗鑒將鄉曲逃此山胡賊攻守不能得今山南有大嶧名曰邾公嶧山北有絕巖秦始皇觀禮於魯登於嶧山之上命丞相李斯以大篆勒銘山嶺名曰畫門詩所謂保有蒲嶧者也〔鄒山記〕

〈太平御覽〉卷 42·地部 7·嶧山

鄒山古之嶧山魯穆公改鄒今鄒山嶧嶧陽猶多桐樹〔鄒山記〕

〈太平御覽〉卷 956·木部 5·桐

鄒山古之嶧陽魯穆公改爲鄒今鄒山嶧陽猶多桐樹〔鄒山記〕

〈藝文類聚〉卷 88·木部上·桐

鄒山古之嶧山魯穆公改爲鄒山今鄒山嶧陽猶多桐樹〔劉薈鄒山記〕

〈初學記〉卷 28·桐第 16·叙事

鄒山古之嶧山言絡繹相連屬也今猶多桐樹〔鄒山記〕

〈史記〉卷 2·夏本紀（禹貢）·正義

2)

徂徠山在梁甫奉高博三縣界猶有美松亦曰尤徰之山也赤眉渠帥樊崇所保也故崇自號尤徰三老矣

山東有巢父廟山高十里山下有陂水方百許步三道流注一水東北沿溪而下屈逕縣南西北流入于汶一水北流歷澗西流入于汶一水南流逕陽關亭南《春秋襄公十七年》逆臧紇自陽關者也又西流入于汶水也〔鄒山記〕

〈水經注〉卷 24·汶水注 p478

[0503] 河南

050301 盧元明嵩高山記

[盧元明嵩山記]

1)

漢有王彥者隱於此山景帝累徵不出遂就而封侯山因爲名後學道得成至今指所在爲王彥崖
〈太平寰宇記〉卷5・河南道5・侯山 上 p49

[嵩高山記]

1)

漢有道士從外國將貝多子來於嵩岳西脚下種之并立浮圖今有四樹與衆木有異一年三花 (a)
花白色其香甚佳嵩山最是栖神靈藪也東出一里有自然五穀神芝仙藥 (b) 東脚下有衆果樹云
是漢果園後有小山名牛山多香樹昔有婦女妊身三十月生子五歲便入嵩高學道通神明爲母立祠
號開母祠 (c) 又有三臺山漢武東巡過 (d) 此山三學仙女遂以爲名 (e) 又一石室有自然
經書飲食 (f) 室前石柱似承露盤有石暗 (g) 滴下食之一合與天地相畢中頂南下二百步亦
有岳廟畫爲神 (h) 像有玉人高五寸玉色光潤相傳曰明公山人或失之經句乃見 (i)
〈太平御覽〉39・地部4・嵩山

注… (a)

嵩寺中忽有思惟樹即貝多也有人坐貝多樹下思惟因以名焉漢有道士從外國來將子於山西脚下
種極高大今有四樹一年三花 [嵩山記]
〈齊民要術〉卷10・槩

嵩高寺中有思惟樹即貝多也如來坐貝多下思惟因以爲名焉 [嵩高山記]

〈太平御覽〉卷960・木部9・貝多 四 p4262

注… (b)

嵩山最是栖神之靈藪長松綠柏生於嶺澗左右古人住止處有銅鈔器物東北出雲有自然五穀神芝
仙藥 [盧元明嵩山記]

〈初學記〉卷5・嵩高山第7・銅鈔 p103

岳左右有古人住處銅鈔器猶存

〈太平御覽〉卷757・器物部2・鈔

山上神芝

〈文選〉卷19・洛神賦・李善注 p352

注… (c)

昔陽翟有婦人妊身三十月乃生子從母背上出五歲便入北山學道通神明爲母立祠因號曰開母祠
焉

〈太平御覽〉卷361・人事部2・產 二 p1665

陽翟婦人今龕中鑿石像其石漢安帝延光三年立 [嵩山記]

〈元和郡縣圖志〉卷 5·河南道 1·登封縣·啓母祠

陽翟婦妊三十月子從背出五歲入山學道爲母立祠曰開母祠 [嵩高記]

〈路史〉卷 9·餘論

注 (d)

「北魏逸書」、「過」作「遇」

注 (e)

山有玉女臺云漢武帝見三仙玉女因以名臺

〈藝文類聚〉卷 62·居處部 2·臺 p1119

山有玉女臺言漢武帝見 (「水經注疏」、補「三仙玉女」四字) 因以名臺

〈水經注〉卷 40·禹貢山水釋地注 下 p3346

注 (f)

又一石室有自然經書飲食

〈北堂書鈔〉卷 142·酒食部 1·惣篇 1·嵩高石室有自然飲食 9a

山下巖中有一石室云有自然經書自然飲食

〈水經注〉卷 40·禹貢山水釋地注 下 p3346

注 (g)

「北魏逸書」、「暗」作「脂」

注 (h)

「北魏逸書」、「神」作「人」

注 (i)

岳廟盡爲神像有玉人高五寸五色甚光潤制作亦佳莫知早晚所造蓋岳神之像相傳曰明公山中人悉云屢常失之或經旬乃見 [盧元明嵩山記]

〈初學記〉卷 5·嵩高山第 7·玉人 p103

大業四年…中略…隋答曰…中略…臣見魏大司農盧元明撰嵩高山廟記云有神人以玉爲形像長數寸或出或隱出則令世延長

〈隋書〉卷 77·隱逸·崔廓傳附崔隨 中華書局 p1757

2)

嵩高山有大松樹或百歲或千歲其精變爲青牛爲伏龜採食其實得長生 [嵩山記]

〈初學記〉卷 28·果木部·松第 13 p686

嵩岳有大樹松或百歲千歲其精變爲青牛或爲伏龜採食其實得長生

〈藝文類聚〉卷 88·木部上·松 p1512

嵩高丘有大松樹或百歲千歲其精變爲青牛或爲伏龜採食其實得長生

〈太平御覽〉卷 953·木部 2·松

山有大松或千歲其精變爲青牛〔嵩高記〕

〈太平御覽〉卷 900·獸部 12·牛下 四 p3993

千歲松或化爲伏龜

〈太平御覽〉卷 931·鱗介部 3·龜 四 4140

3)

嵩高山東北有牛山其山多杏至五月爛然黃茂自中國喪亂百姓飢饉皆資此爲命人人充飽而杏不盡

〈太平御覽〉卷 968·果部 5·杏 四 p4292

東北有牛山其山多杏至五月爛然黃茂自中國喪亂百姓飢饉皆資此爲命人人充飽而杏不盡

〈齊民要術〉卷 4·種梅杏第 36·自注

4)

東嶽脚上有梨樹云是武帝菓園山中諸生皆取食之

〈太平御覽〉卷 969·果部 6·梨 四 p4296

5)

魏文帝時嵇叔夜胡昭在此學桃樹見在

〈太平御覽〉卷 967·果部 4·桃 四 4290

6)

嵩高山上有神芝人芝者狀似小兒地芝者辟方一尺如黃金色覆以五色雲有神龍守之食者可以遐年

〈太平御覽〉卷 986·藥部 3·芝下 四 4366

7)

取松柏茯苓二斤醇酒漬之和以白蜜日三服乃通靈

〈太平御覽〉卷 989·藥部 6·茯苓

8)

有人在嶺上聞異聲清和雅妙尋不復聞唯見一麝香在嶺上側足震跳忽失所在

〈太平御覽〉卷 981·香部 1·麝 四 4345

9)

有獵師在山見浮圖奇妙異常有金像比來尋求白霧忽起不知寺處

〈太平御覽〉卷 15・天部 15・霧 一 p77

10)

漢孝武遊登五岳尊事靈星遂移祠置岳南脚上築作殿壇周廻立瓦屋行種松柏前五百步臨大道立兩石闕極高大

〈太平御覽〉卷 532・禮儀部 11・靈星 三 p2417

漢武遊祭五岳尊事靈星遂移祠置岳南郊築作殿堂周廻立瓦屋行種松柏祠前五百步臨大道立兩石闕極高大也

〈北堂書鈔〉卷 90・禮儀部 11・靈星 25・漢武尊事

11)

嵩山東南三百里有龍脾其地沃壤可居即此岡也今臨潁縣理在岡上

〈太平寰宇記〉卷 7・河南道 7・臨潁縣 一 p72

* [盧氏嵩山記]

1)

半馬澗人或云百馬澗亦曰拜馬澗故老傳王子晉得仙而馬還國人思之不見乃拜其馬於此也

〈太平御覽〉卷 69・地部 34・澗 一 p326

半馬澗人或云百馬澗亦曰拜馬澗故老傳王子晉得仙而馬還國人思之不見乃拜其馬於此也 [盧元明嵩山記]

〈太平寰宇記〉卷 5・河南道 5・緱氏縣 一 p52

2)

覆釜堆又名撫父堆即緱嶺也

〈太平寰宇記〉卷 5・河南道 5・緱氏縣 一 p52

3)

此塢有道士浮邱公接太子晉登仙之所也

〈太平寰宇記〉卷 5・河南道 5・河南府緱氏縣・靈星塢 一 p52

* [嵩山記]

1)

少室山有雲母井出雲母

〈太平御覽〉卷 189・居處部 17・井 一 p917

少室山有雲母井出雲母

〈初學記〉卷 7・井第 6・叙事 p153

少室山有雲母井 [嵩高山記]

〈藝文類聚〉卷 9・水部下・井 p178

2)

月光童子常有天台亦來於此

〈初學記〉卷 5・地理上・嵩高山第 7 p104

3)

鬼谷先生於嵩山東南學仙

〈初學記〉卷 5 地理上・嵩高山第 7

〈白孔六帖〉卷 5

4)

東北五方山上有一池池內有破舟云禹乘來也

〈北堂書鈔〉卷 137・舟部上・舟惣篇 1・嵩高有破舟 11a

5)

嵩高見王母

〈北堂書鈔〉卷 12・帝王部 12・慕道 45 4b

* [嵩高記]

1)

見玉女

〈北堂書鈔〉卷 16・巡行 53 4b

[0504] 兩江

050401 虎丘山記

* [王珣虎丘記]

1)

山大勢四面周嶺南則是山逕兩面壁立交林上合蹊路下通升降窈窕亦不卒至

〈藝文類聚〉卷8・山部下・虎丘山

* [虎丘山疏]

1)

山下三面有春秋二榛

〈太平御覽〉卷970・果部7・榛

山下三面有春秋二奈

〈事類賦〉卷26・果部1・奈・②茂虎丘之嘉實・注

2)

山三面悉有木瓜

〈太平御覽〉卷973・果部10・木瓜

* [虎丘山銘]

1)

晉司徒東亭獻公王珣撰云武丘山先名海涌山

〈藝文類聚〉卷8・山部下・虎丘山

050402 顧愷之虎丘山序

1)

吳城西北有虎丘山

〈太平御覽〉卷46 地部11·虎丘山

吳城西北有虎丘山者含真藏古體虛窮玄隱嶙陵堆之中望形不出常阜至乃粵絕於華峯

〈芸文類聚〉卷8 山部下·虎丘山·序

[0505] 浙閩

050501 徐靈符天台山記

* [天台記]

1)

丹丘出大茗服之生羽翼

〈太平御覽〉卷 867・飲食部 25・茗

丹丘出大茗服之生羽翼

〈事類賦〉卷 17・飲食・茶・(50) 服丹丘而翼生・注

050504 泉山記

1)

山頂有泉分爲兩派一入處州一入建溪即漢書朱買臣所謂東越王居保泉山一人守險千人不得上即此山也

〈太平御覽〉卷 47・地部 12・泉山

2)

梨嶺因梨以名之記云南嶺下道東有鍾離古亭跡存焉

〈太平御覽〉卷 47・地部 12・梨嶺

050505 烏嶺山記

1)

烏嶺峻極不通牛馬以其鳥居山連接因以為名
〈太平御覽〉卷47・地部12・烏嶺山

050506 吳興山墟名…『太平寰宇記』所収文のみ収録

1)

三山太湖中白波天合三點黛色

〈太平寰宇記〉第94卷江南東道6・湖州・烏程縣・三山 (一) p707 下

2)

金山上石悉作丹絳之色夜照數里不假燭以其光采類金而名焉 [張元之山墟名]

〈太平寰宇記〉第94卷江南東道6・湖州・烏程縣・金山 (一) p708 上

3)

昔烏程豪族嚴白虎於山下壘爲城與呂蒙戰所今山上有弩臺烽火樓之跡猶存

[山墟名]

〈太平寰宇記〉第94卷江南東道6・湖州・烏程縣・石城山 (一) p708 下

4)

昔夏后杼巡狩之所今山上有古城曰避蛇城唐大歷八年刺史顏真卿爲處士陸羽建亭於山上以癸年癸月癸日成因名三癸亭 [山墟名]

〈太平寰宇記〉第94卷江南東道6・湖州・烏程縣・杼山 (一) p708 下

5)

漢海昏侯沈戎葬於此上有池深五尺其水冬夏不竭時武帝見山上金鷺翔集或風清雨霽樵夫耕父聞山上鷺鳴 [山墟名]

〈太平寰宇記〉第94卷江南東道6・武康縣・金鷺山 (一) p710 下

6)

几山似几因爲名焉亦作已(巳)山 [山墟名]

〈太平寰宇記〉第94卷江南東道6・武康縣・几山 (一) p710 下

7)

七里橋山頂有石橋長一丈六尺甚峻滑一名石橋一名石頭山今山下有橋村 [山墟名]

〈太平寰宇記〉第94卷江南東道6・武康縣・七橋山 (一) p710 下

8)

每春夾岸華開迄夏不歇 [山墟名]

〈太平寰宇記〉第94卷江南東道6・武康縣・餘英溪 (一) p711 上

9)

昔帝杼南巡至於此山因而名之山上有石鼓高一丈下有盤石爲足諺云石鼓鳴則三吳有兵 [張元之山墟名]

〈太平寰宇記〉第94卷江南東道6・長興縣・夏駕山 (一) p712 下

10)

飛雲山南有風穴故雲霧不得靄鬱其間其上多產楓櫟等樹宋元徽五年置飛雲寺有石泉沙渚松門苦竹巖也 [張元之山墟名]

〈太平寰宇記〉第 94 卷江南東道 6·長興縣·飛雲山 (一) p712 下

11)

昔姚紵得仙於此山化爲白鶴而飛因以名之 [張元之山墟名]

〈太平寰宇記〉第 94 卷江南東道 6·長興縣·白鶴山 (一) p712 下

12)

九龍山其山有九隴悉作龍形山頂有古石城城西北角有石竇因名 [張元之山墟名]

〈太平寰宇記〉第 94 卷江南東道 6·長興縣·九龍山 (一) p712 下

13)

青山有石竇通洞庭冬夏常暖山如黛色 [張元之山墟名]

〈太平寰宇記〉第 94 卷江南東道 6·長興縣·青山 (一) p713 上

14)

藝香山昔西施種香之所 [張元之山墟名]

〈太平寰宇記〉第 94 卷江南東道 6·長興縣·藝香山 (一) p713

15)

西顧昔吳王闔閭登姑蘇望五湖望見此山因名之 [張元之山墟名]

〈太平寰宇記〉第 94 卷江南東道 6·長興縣·西顧山 (一) p713

16)

雉山形類雉 [張元之山墟名]

〈太平寰宇記〉第 94 卷江南東道 6·長興縣·雉山 (一) p713

17)

西噎山泉澗北流而西向峻狹以其聲嗚咽而名之 [山墟名]

〈太平寰宇記〉卷 94 江南東道 6·長興縣·西噎山 (一) p713

18)

龍目峴山石巖間有二目光彩照人因謂之龍目峴 [張元之山墟名]

〈太平寰宇記〉卷 94 江南東道 6·長興縣·龍目峴 (一) p713

19)

昔西施種香之所上有蘭苕畹 [山墟名]

〈太平寰宇記〉卷 94 江南東道 6·長興縣·南嶼山 (一) p713

20)

西湖一名吳城湖昔吳王闔閭築吳城使百姓輦土於此浸而爲湖闔閭弟夫概因而創之〔山墟名〕

〈太平寰宇記〉卷94 江南東道6・長興縣・西湖 (一) p713 下

21)

昔漢荊王賈登此山名之〔張元之山墟名〕

〈太平寰宇記〉卷94 江南東道6・長興縣・荊溪 (一) p713 下

22)

金山金潭金塘金渠悉漢樓船將軍金曼倩居之〔山墟名〕

〈太平寰宇記〉卷94 江南東道6・長興縣・金潭 (一) p714 上

23) 紫花澗兩岸長薄之下生朱籐至三月紫花滿澗一名花瀨〔山墟名〕

〈太平寰宇記〉卷94 江南東道6・長興縣・紫花澗 (一) p714 上

24) 昔吳王夫概顯其渚次原隰平衍爲都邑之所今崖谷林薄之中多產茶茗以充歲貢〔山墟名〕

〈太平寰宇記〉卷94 江南東道6・長興縣・顯渚 (一) p714 上

25)

苧溪以貢苧爲名南岸有蘭相如廟北岸有青州刺史姚恢囚女城〔山墟名〕

〈太平寰宇記〉卷94 江南東道6・長興縣・苧溪 (一) p714 下

[0506] 湖北南

050601 徐靈期南嶽記(南岳記)

1)

衡山者五嶽之南嶽也其來尚矣至于軒轅乃以灑〔自注：音潛〕霍之山爲副焉故爾雅云霍山爲南嶽蓋因其副焉〔自注：或云衡山一名霍山〕至漢武南巡又以衡山遼遠道隔江漢於是乃徙南嶽之祭于廬江灑山亦承軒轅副義也〔自注：干寶搜神記曰漢武徙南嶽之祭著廬江潛縣之霍山郭璞爾雅注云霍山在廬江郡潛縣別名天柱山漢武以衡山遼遠識諱以霍山爲岳故祭之也〕

〈太平御覽〉卷 39·地部 4·衡山

衡山者五岳之南岳也其來尚矣至於軒轅乃以灑〔自注：音潛〕霍之山爲其副焉故爾雅云霍山爲南岳蓋因其副焉〔自注：或云衡山一名霍山〕至漢武南巡又以衡山南遠道隔江漢於是乃徙南岳之祭于廬江灑山此亦承軒轅副義也〔自注：干寶搜神記云漢武徙南岳之祭著廬江潛縣之霍山郭璞爾雅注云霍山在廬江郡潛縣別名天柱山漢武以衡山遼遠識諱以霍山爲岳故祭之〕故南岳衡山朱陵之靈臺太虛之寶洞上承冥宿銓德鈞物故名衡山下踞離宮攝位火鄉赤帝館其嶺祝融託其陽故號南岳周旋數百里高四千一十丈東南臨湘川自湘川至長沙七百里九向九背然後不見禹治水登而祭之因夢遇玄夷使者遂獲金簡玉字之書得治水之要山有三峯其一名紫蓋天景明澈有一雙白鶴徊翔其上峯名石困下有石室中常聞諷誦聲一峯名芙蓉上有泉水飛流如舒一幅練山海經云衡山一名岫嶠山其上多青腹鳥多鸚鵡

〈初學記〉卷 5·衡山·叙事

2)

南岳山上有飛流壇懸水激石飛湍百仞即孫溫伯所喪身處也又有曲水壇水行石上成溝澆如世人臨河壇也三月三日時來逍遙

〈太平御覽〉卷 185·居處部 13·壇

南岳山上有飛壇懸水激石飛湍百仞即孫溫伯所喪身處也又有曲水壇水行石上成溝澆如世人臨河壇也三月三日時來逍遙

〈藝文類聚〉卷 64·居處部 4·壇

〈白孔六帖〉卷 5

3)

衡山石室中有几及香爐〔徐先生南岳記〕

〈太平御覽〉卷 703·服用部 5·香爐

衡山有石室內有石牀石几〔南岳記〕

〈太平御覽〉卷 710·服用部 12·几

衡山之崗有石室有古人住處有刀鋸銅銚及瓦香爐〔南岳記〕

〈藝文類聚〉卷 70·服飾部下·香爐

衡山石室有石牀石几〔南岳記〕

〈事類賦〉卷之 14・服用部 3・几・注・⑦白玉青石之奇

衡山有仙人石室中有白玉牀榻〔南岳記〕

〈北堂書鈔〉卷 133・榻 16・仙人玉榻 3a

：参考：

仙人室中有黃玉牀〔衡山記〕

〈太平御覽〉卷 706・服用部 8

4)

夏禹導水通瀆刻石書名山之高南岳文云四千一十丈

〈初學記〉卷 5・衡山第 4・石書

5)

衡山者太虛之寶洞

〈初學記〉卷 8・江南道第 10・寶洞

6)

流丹崖南五里得仙人宮道士休糧絕穀身輕清虛便得入此宮

〈初學記〉卷 8・江南道第 10・仙宮

：参考：

*〔南嶽記〕

1)

當翼軫度機衡謂之衡山山有錦石斐然成文

〈太平御覽〉卷 39・地部 4・衡山

2)

南嶽回雁爲首嶽麓爲足

〈輿地紀勝〉卷 55

南嶽周迴八百里回雁爲首嶽麓爲足

（麓山精舍輯本所引）

3)

高四千五百丈

〈太平寰宇記：補闕〉卷 114・江南道 12・潭州長沙縣・武陽山

*〔元和志南嶽記〕

1)

上如車蓋及衡軛之形山高四千一十丈衡山七十二峯在衡陽境者凡六曰岫巒回雁碧雲白玉仙上九嶺在長沙湘鄉湘潭善化縣境者凡七而在縣境者凡五十九其大者有六曰祝融紫蓋天柱石廩芙蓉雲密自此而外有五十三峯合在別縣者十三峯共七十二峯而嶽麓不與焉又有十五巖十洞三十八泉二十五溪九池九潭六源八橋九井

〈太平寰宇記〉卷 115 · 江南西道 13 · 衡州衡山縣 · 衡山

050602 傳先生南岳記

1)

衡山芝崗石室有瓦香爐

〈初学記〉卷25・香爐

050601の3)に類似

050603 衡山記

1)

衡山有曾青崗出曾青可合仙藥有靈壽崗有靈壽木周廻數十里芝草崗有神芝靈草
〈太平御覽〉卷 53・地部 18・崗

衡山有曾青崗曾青可合仙藥
〈太平御覽〉卷 988・藥部 5・曾青

衡山有曾青岡出曾青可合仙藥有靈壽岡多靈壽木
〈藝文類聚〉卷 6・地部・岡

南山有靈壽崗山上多芝草靈壽木
〈北堂書鈔〉卷 157・地部・崗篇七・芝草崗 7a

衡山有曾青崗出曾青可以合仙藥
〈北堂書鈔〉卷 157・地部・崗篇七・曾青崗 7a

2)

仙人室中有黃玉牀
〈太平御覽〉卷 706・服用部 8・牀
→050601 に重複収録

3)

有人採藥暮宿石室中見一銅銚是煮藥處蠻人間之取銚還用舉村盡病送返乃已
〈太平御覽〉卷 757・器物部 2・銚

4)

桂英巖上鑿石作臼有鐵杵倚置巖畔石臼邊有兩人腳跡
〈太平御覽〉卷 762・器物部 7・杵臼

5)

鷄頭陂西有石室有人採藥暮宿其中曉見一鋸懸在壁上示有形無復鐵貫
〈太平御覽〉卷 763・器物部 8・鋸

6)

空青崗有天津玉池
〈文選〉卷 31 雜擬・江文通雜體詩・嵇中散・李善注 p434

7)

甘泉東有石壁禹所刻文在此
〈初學記〉卷 24・牆・禹文

8)

玄草崗東南有流丹服之不死

〈北堂書鈔〉卷 157・地部・崗篇七・玄草崗 7b

050604 衡山圖經

1)

小廬山一名浮丘山在縣西一百八里高六里三十步東西二十里南北四十里言其山似九江廬山故曰小廬山

〈太平御覽〉卷 49·地部 14·小廬山

2)

靜福山有縣北五十里有梁廖冲者守清虛爲本郡主簿西曹祭酒湘東王國常侍大同三年家於此山先天二年飛昇於此山後刺史蔣防敬慕高風刻石爲碑

〈太平御覽〉卷 49·地部 19·靜福山

050606 武當山記

* [殷斌當山記]

1)

魏興反照山上有三公鐵鑊常有數十斛雖大旱而不減長老云有天子女欲來此山愁思而死三公衛送故於此烹之

〈太平御覽〉卷 757·器物部 2·鑊

* [武當山記]

1)

魏興錫縣有長利城父老伯相傳云是長安土所築邑塞於餘城

〈太平御覽〉卷 192·居處部 20·城上

2)

山有石室有板床銅杖長七尺三分

〈太平御覽〉卷 710·服用部 12·杖

山有石室中有銅杖長七尺

〈太平御覽〉卷 813·珍寶部 12·銅

山有石室室中有銅杖長七尺八寸

〈北堂書鈔〉卷 133·服飾·銅杖 12a

3)

武當山區城周迴四五百里中央有一峯名曰參嶺高二十餘里望之秀絕出於雲表清朗之日然後見峯一月之間不見四五輕霄蓋于上白雲帶其前且必西行夕而東返常謂之朝山蓋以衆山朝揖之主也 [山記]

〈太平御覽〉卷 43 地部 8·武當山

區城周迴四五百里中央有一峯名曰參嶺高二十餘里望之秀絕出於雲表清朗之日然後見峯一月之中不過四五輕霄蓋其上白雲帶其前日必西行夕而東返則惟其常謂之朝山蓋以重朝揖之主也

〈太平寰宇記〉卷 143 山南東道 2·武當縣 (二) p286 上

: 參考 :

* [殷斌石室記]

1) 安城新喻縣有石室又有井仰溝窅洞深幽穴傍會莫有能究其極者

〈北堂書鈔〉卷 158·17 a

050608 句將山記

1)

登句將山南望見宜都江陵近在目前沮潭沔漢諸山嶠嶠時見遠眺雲夢之澤晶然與天際四顧摠視衆山數千仞者森然羅列於足下千仞以還者羸嵬如丘浪勢焉今在上洛縣西北

〈太平御覽〉卷 49 地部 11・句將山

2)

登句將北見高筐山巖然半天

〈太平御覽〉卷 49 地部 11・高筐山

登句將北見高笄山巖然半天

〈太平寰宇記〉卷 147 山南東道 6・夷陵縣・高笄山 (二) p315 上

3)

登句將山見馬鬣建鼓凝然半天〔袁山松記〕

〈太平寰宇記〉卷 143 山南東道 2・房陵縣・建鼓山 (二) p288 下

(地理書鈔は〔袁山松句將山記〕として収録しているが、あるいは〔宜都山川記〕か?)

4)

縣去山四十里別從狼尾灘下南崖已上峽州

〈初学記〉卷 8 地部・山南東道第 7・狼尾

050609 荊山記

1)

巴陵南有青草湖周迴百里日月出沒其中湖南有青草山故因爲名
〈藝文類聚〉卷9・水部下・湖

* [荊山圖]

1)

佷山縣山下有石床傍生野薤人往乞者神許則風吹制其分齊隨偃而翦不得過越
〈太平御覽〉卷9・天部9・風

050610 宗淵麓山記

1)

山足曰麓蓋衡山之足也

〈太平御覽〉卷 49 地部 14・西楚南越諸山・麓山

山足曰麓蓋衡山之足也

〈太平寰宇記〉逸 卷 114 江南道 12・潭州・長沙縣・嶽麓山

050611 袁山松宜都山川記 … 〈太平寰宇記〉所収のもののみ収録

1)

虎牙山有石壁其色黃間有白文亦有牙齒

〈太平寰宇記〉卷 147 山南東道六・夷陵縣・虎牙山 (二) p315 上

2)

南崖有山名荆門北崖有山名虎牙

〈太平寰宇記〉卷 147 山南東道六・夷陵縣・荆門山 (二) p315 下

3)

丹山時有赤氣竈井如丹故加此名〔袁山松宜都記〕

〈太平寰宇記〉卷 147 山南東道六・夷陵縣・丹山 (二) p316 下

4)

郡城陸抗攻步闡拒晉於此壘（以下地理書鈔は採録せず：梁武帝天監中於此置宜州爲拓州蓋取開拓之意周武帝以扼三峽之口復改爲峽州陳嘗得之以爲重鎮隋伐陳陳人守荊州狼尾灘並在宜都界）〔宜都記〕

〈太平寰宇記〉卷 147 山南東道六・峽州 (二) p314 上

5)

西陵北崖有石穴遠望常白馬出入其間尋之莫覩〔宜都記〕

〈太平寰宇記〉卷 147 山南東道六・夷陵縣・白馬穴 (二) p315 上

[0507] 陝西甘肅

050701 華山記

1)

山頂有池生千葉蓮花服之羽化因曰華山

〈太平御覽〉卷 39·地部 4·華山

山頂有池池中生千葉蓮華服之羽化因名華山

〈太平御覽〉卷 999·百卉部 6·芙蕖

山頂有池生千葉蓮花服之羽化因曰華山

〈初學記〉卷 5·華山第 5·叙事

華山頂生千葉蓮花

〈初學記〉卷 5·華山第 5·蓮峯

華山頂上有池生千葉蓮花服之者羽化

〈初學記〉卷 27·芙蓉·叙事

華山頂有池生千葉蓮花服之羽化

〈初學記〉卷 27·芙蓉·千葉

山頂有池池中生千葉蓮花服之羽化因華山

〈藝文類聚〉卷 82·草部下·芙蕖

〈白孔六帖〉第 5

山頂有池生千葉蓮花服之羽化因名華山

〈太平寰宇記〉卷 29 關西道 5·華州華陰縣·太華山 p247 下

2)

山有三峯〔謂蓮華毛女松桧也〕

〈太平御覽〉卷 39·地部 4·華山

3)

南嶺東巖北面有二小山一山有雙石豎立號曰石門一山孤崖特秀上有客觀陟之者遠眺千里

〈太平御覽〉卷 179·居處部 7·觀

南嶺東巖北面有二小山一山有雙石豎生號曰石門一山石孤崖特秀上有客觀涉之遠者眺十里

〈藝文類聚〉卷 63·居處部 3·觀

4)

華山上有明星玉女持玉漿

〈太平御覽〉卷 861・飲食部 19・漿

5)

西山麓中有栗林藝植以來蕭森繁茂

〈太平御覽〉卷 964・果部 1・栗

西山麓中有栗林藝植以來蕭森繁茂

〈初學記〉卷 28・栗・華山麓 p678

6)

華山講堂西頭有枇杷園

〈太平御覽〉卷 971・果部 8・枇杷

華山講堂西頭有枇杷園

〈藝文類聚〉卷 87・菓部下・枇杷

7)

華山高巖四合重嶺秀起上有石池北有石鼓父老傳云嘗有聞其鳴者

〈藝文類聚〉卷 7・山部上・華山

華山高巖四合重嶺秀起

〈初學記〉卷 5・華山第 5・4 合

華山頂有石鼓父老傳云嘗有聞其鳴者

〈初學記〉卷 5・華山・石鼓

8)

此山分秦晉之境晉之西鄙則曰陰晉秦之東邑則曰寧秦

〈史記・卷 69・蘇秦列傳・正義〉

9)

此山分秦晉之境鄙晉之西則曰陰晉秦之東則曰寧秦戰國時自高陵以東皆魏之分

〈太平寰宇記〉卷 29 關西道 5・華州 p244

10)

宏農鄧紹八月曉入華山見童子執五綵囊盛柏葉露食之

〈太平寰宇記〉卷 29 關西道 5・華州華陰縣・集靈宮 p248

11)

北有石鼓

[郭緣生述征記及華山記]

1)

山下自華岳廟列柏南行十一里又東廻三里至中祠又西南出五里至南祠南入谷口七里又至一祠
〔自注：凡欲昇山者皆祈禱焉〕又南一里至天井天井纔容人上可長六丈餘出井如望空視明如在室窺窗矣出井東南二里至峻坂斗上又東上百丈崖皆必攀繩挽葛而後行又西南出六里又至一祠名胡越寺神又行二里便屆山頂上方七里有靈泉二所一名蒲池一名太上泉池北有石鼓嘗聞其鳴其上有三峯直上晴霽可能觀

〈初學記〉卷 5・華山第 5・敘事

050702 華山精舍記

1)

老子枕中記云吳西界有華山可以度難父老云山頂北有池上生千葉蓮花服之羽化因曰華山長林森大荒楚蔽日

〈太平御覽〉卷46・地部11・華山

050703 西岳記

1)

漢武帝巡省五岳禮祀豐備故立宮其下號曰集靈宮
〈初学記〉卷 24・宮第 3・集靈

2)

甘雪惠茲禾黍
〈北堂書鈔〉卷 152・天部 4・雪篇 18・甘雪 1b

050704 傅玄華嶽銘序

1)

易稱法象莫大乎天地天以高明崇顯而岳配焉地以廣厚爲基而嶽體焉若夫太華之爲鎮也五岳列位而存其首三條分方而處其中故能參兩儀以比德協和氣之綱緼故雲行與雨施興雷風以動物是以古先歷代聖帝明王莫大不燔柴加牲尊而祀焉於虞書則西巡狩至于西岳而親祭焉於禮則大司馬掌其分域而大宗伯典其禮祀也

〈藝文類聚〉卷7 山部上·華山

[0508] 広東西

050801 袁彦伯羅浮山記

* [袁彦伯羅浮記]

1)

嘗有沙門詣南海太守袁彦伯云當還羅浮山請一小吏提錫鉢袁乃給之小吏既去恍惚不覺有舟車但聞足下有波浪聲奄忽便至一山見數道士設食飯皆青色如珠屑食畢以餘與之雖無甚美殊有香潤

〈太平寰宇記〉卷 160・嶺南道 4・博羅縣 (二) p397 下

2)

葛洪字稚川句容人也譙國人嵇含嘗爲廣州乃請洪參廣州軍事洪先行到廣州而舍于此遇害洪還留廣州乃憩於此山咸和初司徒王遵補州主簿轉司徒掾遷諮議參軍干寶薦洪才器宜掌國史當選大著作洪因固辭不就以年老欲煉丹自衛聞交趾出丹砂乃求勾漏縣於是選焉遂將子姪俱行至廣州刺史鄧岱以丹砂可致請留之洪遂復入此山鍊神丹於此山積年忽與岱書云當遠行尋師藥尅期當去岱疑其異便狼狽往別既至而洪已死時年六十一視其顏色如平生體亦柔軟舉屍入棺甚輕如空衣然也

〈太平寰宇記〉卷 160・嶺南道四・博羅縣 (二) p397 下

* [袁彦伯羅浮山疏]

1)

遙望石樓直上當十餘里許石樓之於山頂十分之一耳去縣三十里便見山基至所登處當百里許山皆平敞極目

〈藝文類聚〉卷 7・山部上・羅浮山

〈白孔六帖〉卷 5

* [袁彦伯羅山疏]

1)

仰望石樓眇然在雲中

〈太平御覽〉卷 176・居處部 4・樓

2)

善道開戶(尸?) 在石室北壁下形體朽壞止(上?) 有白骨在昔在都識此道士聞之使人慨然其業行殊異當蟬蛻解骨耳石室中先有甌盛香得便掃除燒香

〈太平御覽〉卷 759・器物部 4・甌 四 p3369

博羅縣本漢舊縣屬南海郡隋開皇十年改屬循州二漢縣立名不一自吳以後復爲博羅

羅浮山在縣西北二十八里羅山之西有浮山蓋蓬萊之一阜浮海而至與羅山並體故曰羅浮高三百六十丈周迴三百二十七里峻天之峰四百三十有二焉事具袁彦伯記 [袁彦伯記]

〈元和郡縣圖志〉卷 34·嶺南道 1

* [羅浮山記]

1)

山有龜淵淵有神龜龜鼻貫銅環若有人穢此淵即注雨

〈太平御覽〉卷 10·天部 10·雨上

山有龜淵淵有神龜龜鼻貫銅環若有人穢此淵即澍雨

〈事類賦〉卷 3·天部 3·(47) 忤羅浮之神龜·注

2)

羅羅山也浮浮山也二山合體謂之羅浮在層城博羅二縣之境有羅水南流注于海舊說羅浮高三千丈長八里有七十二石室七十二長溪神湖神禽玉樹朱草相傳云浮山從會稽來今浮山上猶有東方草木又曰鮑靜字子玄上黨人博究仙道爲南海太守晝臨民政夜來羅浮山騰空往還

〈太平御覽〉卷 41·地部 6·羅浮山

羅浮者蓋總稱焉羅羅山也浮浮山也二山合體謂之羅浮在增城博羅二縣之境舊說羅浮高三千丈有七十石室七十二長溪神明神禽玉樹朱草

〈藝文類聚〉卷 7·山部上·羅浮山

〈白孔六帖〉卷 5

山高三千丈長八百里舊說浮山從會稽來博于羅山故稱博羅今羅浮山上獨有東方草木

〈文選〉卷 26·謝靈運·初發石首城·李善注

3)

牛潭深洞無極北岸有石周圍三丈許漁人見牛自水而出盤于此石

〈太平御覽〉卷 66·地部 31·湖

牛潭深洞無極北岸有石周圍三丈許漁人見金牛自水而出盤于此石義興周靈甫嘗見此牛寢伏石上旁有金鑠如索繩焉周甫素銳勇往掩此牛掣斷其鑠得二丈許遂以財雄

〈太平御覽〉卷 472·人事部 113·富下

州南十里有牛潭漁人見金牛自水出義熙中縣民張安躡得金鑠大如指遂數十尋尋不已俄有物從水引之掘不能禁以刀斷得數尺安遂致富其後義興周雲甫掩此牛掣斷其鑠得二丈遂以財雄

〈太平御覽〉卷 811·珍寶部 10·金下

4)

羅嶺之南有瀑布桂泉四十餘丈

〈太平御覽〉卷 71·地部 36·瀑布水

5)

浮山東石樓下有兩石鼓扣之清越所謂神鉦也

〈太平御覽〉卷 582·樂部 20·鼓

山東石樓下有兩石鼓扣之清越所謂神鉦也

〈事類賦〉卷 11·樂部·(50) 羅浮神鉦·注

羅浮山東別有山有兩石鼓扣之清越

〈北堂書鈔〉卷 108·樂部·鼓 7·羅浮石鼓 6a

：參考：

言洞庭南口有羅浮山高三千六百丈浮山東石樓下有兩石鼓叩之清越所謂神鉦也事備羅浮山記
〈水經注〉卷 29·沔水注 p564 楊守敬·中 p2441

6)

王方平着遠遊冠五色綬

〈太平御覽〉卷 685·服章部 2·遠遊冠

7)

有名鑊容器千餘斛溢爲瀑布

〈太平御覽〉卷 757·器物部 2·鑊

8)

羅山頂有桂山海經所謂賁隅之桂〔賁隅番隅也〕

〈太平御覽〉卷 957·木部 6·桂

羅浮山頂有桂山海經所謂賁隅之桂

〈藝文類聚〉卷 89·木部下·桂

9)

木縣正月則花大如芙蓉花落結子方生縣與葉耳子內有綿甚白蚕成則熟南人以爲繻絮

〈太平御覽〉卷 960·木部 9·木綿

10)

求郇衛外國樹英華紅粉至可愛翫

〈太平御覽〉卷 961·木部 10·求郇衛

11)

男青條藥之屬莫不朱色尤易植立折挿土中因便開榮

〈太平御覽〉卷 961·木部 10·男青

12)

邛竹本出邛山張騫西至大夏所見也而此山左右時有之鄉老多以爲杖

〈太平御覽〉卷 963・竹部 2・筍竹

邛竹本出邛山張騫西至大夏所見也而此山左右時有之鄉老多以爲杖
〈初學記〉卷 28・竹第 18・叙事

13)

綏寧縣元龜淵中出菱甚爲甘旨

〈太平御覽〉卷 975・果部 12・菱 四 p4321

14)

又有男青似女青

〈太平御覽〉卷 993・藥部 10・女青

15)

宜山中菖蒲一寸二十節堅芬之極

〈太平御覽〉卷 999・百卉部 6・菖蒲

羅浮山中菖蒲一寸二十節

〈藝文類聚〉卷 81・藥香草部上・菖蒲

16)

木槿一名赤槿華甚丹四時敷榮

〈藝文類聚〉卷 89・木部下・木槿

050802 竺法真登羅山疏

1)

增城縣有石溝深廣三丈有兩瀑布皆同注此溝相傳云是仙人流杯池水

〈太平御覽〉卷 71・地部 36・瀑布水

2)

增城縣南有烈清洲洲南又有牛潭漁人見金牛常水出盤石上義熙中縣民張安釣此潭於石上躡得金鑠大如指長數十尋尋不已俄有物從水中引之力不能禁以刀斫斷唯得數尺遂致大富後義興周靈分亦好釣嘗見此牛寢伏石上旁有金鎖往掩之得二丈許遂以財雄爲南江都尉

〈太平御覽〉卷 900・獸部 12・牛下→050801 [羅浮山記] の3) に重複収録)

3)

山上有神湖湖中有白鴨

〈太平御覽〉卷 919・羽族部 6・鴨

4)

越王鳥狀似鳶口句末可受二升許南人以爲酒器玆於文螺不踐地不飲江湖啜百草木餌蟲魚唯噉木葉糞似董陸香山人遇之既以爲香又治雜瘡

〈太平御覽〉卷 928・羽族部 15・衆鳥

5)

五距離鳥足有重距其音先顧或謂之先顧鳥似孔雀背連錢文

〈太平御覽〉卷 928・羽族部 15・衆鳥

6)

金花蟲大如斑猫形色文采如金是龜屬得之養翫彌日

〈太平御覽〉卷 949・蟲豸部 6・金花

7)

嶺南道無筋竹唯羅山有之其大尺圍細者色黃金堅貞疎節

〈太平御覽〉卷 963・竹部・筋竹

又有筋竹色如黃金

〈齊民要術〉卷 10・竹

8)

荔支冬青夏至日子始赤六七日可食甘酸宜人其細核者謂之焦核荔支之最珍也

〈太平御覽〉卷 971・果部 8・荔支

9)

越王擣董陸香

〈太平御覽〉卷 981·香部 1·香

10)

旃檀出外國元嘉末曾城有人於山見一大樹員蔭數畝三丈餘圍辛芳酷烈其間枯條數尺授而刃之乃白旃檀

〈太平御覽〉卷 982·香部 2·旃檀

11)

沈香葉似冬青樹形崇竦其木枯折外皮朽爛內乃香山雖有此樹而非香所出新會高涼土人斫之經年內爛盡心則爲沈香出北景縣樹極高大土人伐之累年須外皮消盡乃割心得香

〈太平御覽〉卷 982·香部 2·沈香

12)

山檳榔一名蒟子幹似蔗葉類柞一叢千餘幹幹生十房房底數百子四月采

〈齊民要術〉卷十·蒟子

山檳榔一名蒟子幹似蔗葉類柞一槩十餘幹每幹生十房房底數百子四月采樹似楨〔音并〕欄生日南者與檳榔同狀五月子熟長寸餘

〈太平御覽〉卷 971·果部 8·檳榔

* [竺法眞登羅浮山記]

1)

山中有純白鸚鵡

〈太平御覽〉卷 924·羽族部 11·白鸚鵡

* [竺法眞登羅浮山疏]

1)

羅浮山有沙棠華黃實赤味甘如李

〈太平御覽〉卷 972·果部 9·沙棠作

050803 徐道覆羅浮山記

1)

山在增城博羅二縣之界仙客羽人是焉遊幸有七八十二長溪山上有洞中有白鷺羅山有浮山西南合於博羅山是茲境（あるいは以下は別資料か？）舊云浮山從會稽流來今浮山上猶有東方草木又有翁翠五距越王山雞又有玳瑁山山下有池池中出玳瑁因以名之又有石樓峨峨渺然在雲中一曰石樓峯

〈太平寰宇記〉卷 160 嶺南道 4・博羅縣 （二） p397 下

050804 廣州山川記

1)

白塔水庾水胥水三水上源出龍川經增城而流入海

〈太平寰宇記〉卷 157 嶺南道 1・增城縣・山水 (二) p379

[0509] 四川雲南

050902 巴南山川記

1)

有石蒜石葱

〈太平御覽〉卷 977・菜茹部 2

[0510] 江西

051001 廬山略記…集逸部分のみ収録

1)

山在江州潯陽南

〈文選〉卷12・江賦・李善注

〈文選〉卷26・謝靈運〈初發石首城〉・六臣注

山在江州潯陽郡左挾彭澤右傍通川有匡俗先生出自殷周之際遯世隱時潛居其下或云匡俗受道於仙人而共遊其嶺遂託室崖岫即巖成館故時人謂爲神仙之廬而命焉

〈世說新語〉・規箴第十・24・注

2)

殷周之際匡俗先生受道仙人共遊此山時人謂其所止爲神仙之廬因以名山矣

〈水經注〉卷39・廬江水注 p743

山海經曰廬江天子都有匡俗先生者出自殷周之際隱遁避世潛居其下或云俗受道於仙人而共遊其嶺遂託室懸岫即巖成館故時人謂其所止爲神仙之廬西南有石門似雙闕壁立千餘仞而瀑布流焉 [遠法師廬山記]

〈太平御覽〉卷41・地部6・廬山

3)

天將雨水氣如車馬此郡龍甘所吐也

〈北堂書鈔〉卷151 天部2・雨篇17・廬山氣如馬

山東南有香鑪山孤峯秀起遊氣籠其上即樊蘊若煙氣

〈文選〉卷22・詩遊覽・江文通從冠軍建平王登廬山香鑪峯・六臣注

東南有香廬山孤峯秀起遊氣籠其上則芬氤如烟 [遠法師廬山記]

〈藝文類聚〉卷7 山部上・廬山

〈白孔六帖〉卷5

051002 遠法師遊山記 [法師遊山記]

1)

自託此山二十三載再踐石門四遊南嶺東望香鑪峯北眺九江傳聞有石井方湖中有赤鱗踊出野人不能叙直歎其奇妙而已矣

〈世說新語〉・規箴第 10・24・注

(注) 箋疏校、〈四〉、唐本作〈西〉。

箋疏校、〈踊〉、唐本作〈涌〉。

2)

自託此山二十二載凡再詣石門四遊南嶺東望香爐秀絕衆形北眺九流神覽視四巖之內猶觀之掌焉傳聞有石井方湖足所未踐 [遠法師遊山記]

〈太平御覽〉卷 41・地部 6・廬山

051003 周景式廬山記

1)

登廬山望九江以觀禹之跡其茲峯乎東南隱諸嶺不得駢囑自廬山人迹所暨迴望無後出此者每雨其下成潦而上猶皎日

〈太平御覽〉卷 41・地部 6・廬山

登廬山望九江以觀禹之跡其茲峯乎東南隱諸嶺不得駢囑自廬山人迹所暨迴望處無復出此者又甚高峻每雨其下成潦而上猶皎日峯頭有大盤石可坐數百人

〈藝文類聚〉卷 7・山部上・廬山

〈白孔六帖〉卷 5

2)

山頂有一窮湖湖足楨尾鯉鬚皆傷剝而又有一故編槽崇山峻遠非舟楫所游豈深谷爲陵而此物不與丘壑同遷乎

〈太平御覽〉卷 66・地部 31・湖

：参考：顧微廣州記曰廬山上有一湖至甲戌日輒聞山有鼓角声：上記に続けて

山頂有一窮極湖湖足楨尾鯉鬚皆傷剝而又有一故編槽崇山峻遠非舟楫所游豈深谷爲陵而此物不與之而遷乎

〈初学記〉卷 7・湖第 1・楨鯉

3)

山西有龍泉精舍初遠法師遣諸道人行卜地息此而渴法師因以杖掘地即泉出天旱法師令道人讀海龍王經泉中有物如蛇而出角騰空中去須臾而雨

〈太平御覽〉卷 70・地部 35・泉水

4)

泉在黃龍南數里即瀑布水也土人謂之泉潮其水出山腹挂流三四百丈飛湍於林峯表出望之若懸索注水處石悉成井其深不測也

〈太平御覽〉卷 71・地部 36・瀑布水

白水在黃龍南即瀑布也水出山腹挂流三四百丈飛湍林表望若懸素注處悉成巨井其深不測〔其水入江淵：楊守敬はここまで入れる〕〔廬山記〕

〈水經注〉卷 39・廬江水注 p745

5)

柴桑彭澤之郊古三苗國舊廬江地

〈太平御覽〉卷 170・州郡部 16・江州

柴桑彭澤之郊古三苗國舊廬江地

〈太平寰宇記〉卷 111 江南西道 9·江州 p82

6)

山有康皇廟廟有銅馬一枚道士丁玄眞取擲置澗中經宿復還丁乃賣與遠村人買者盡病即送還悉愈

〈太平御覽〉卷 828·資產部 8·賣買

7)

有嫗事康王廟林中有一虎祠祭輒以餘肉及骨與之有人惡畏之嫗使避之人去復來

〈太平御覽〉卷 892·獸部 4·虎下

8)

白水南行十餘里有鷄山傍有大山竦〔自注：立上〕有石鷄冠距如生道士李鎮於此下住常寶玩之鷄一旦忽摧毀鎮告人曰鷄卒如此吾其終乎因與親知訣別後月餘果卒似知命云

〈太平御覽〉卷 918·羽族部 5·鷄

9)

安侯世高者安息國太子與友人共出家學道友人好恚怒死受蟒報爲此宮亭廟神世高於廣州爲人所殺還生安息國復爲王子年二十又棄國入吳之宮亭泊舡過呼友人與語友人身長數十丈見世高向之胡語竟各分去暮有一少年上世高舡跪受呪願因忽不見世高語同舡人曰向少年即此廟神也得離惡形矣蟒既見世高從山南過死山北今柴桑民所居蛇里是也

〈太平御覽〉卷 934·鱗介部 6·蛇下

安侯世高者安息國太子與友人共出家學道友人恚怒死受蟒報爲此宮亭湖神世高於廣州爲人所殺還生安息國復爲王子年二十棄國入吳未之宮亭泊船呼友人與語友人身長數十丈見世高向之胡語竟各分去暮有一少年上世高船跪受呪願因忽不見世高語同船人曰向少年即此廟神也得離惡形矣蟒既見世高從山南過死山北今柴桑民所居蛇里是也

〈藝文類聚〉卷 96·鱗介部上·蛇

10)

石門巖即松林也南臨石門澗澗中仰視之離離駢麈尾號爲麈尾松西嶺巽然如馬鬣又葉五粒者名五粒松服之長生

〈太平御覽〉卷 953·木部 2·松

石門北巖即松林也有數百株松大皆連拱長近二十丈攢生絕崖上南臨石門澗澗中仰視之離離如駢麈尾於尋陽望聚見之分明

〈初学記〉卷 28・木部・松第 13・塵尾

石門北巖即松林也南臨石門澗澗中仰視之離離駢塵尾號塵尾松
〈藝文類聚〉卷 88・木部上・松

11)

康皇溪道士種松及筋竹竿
〈太平御覽〉卷 963・竹部 2・筋竹

12)

山果有益智葡萄
〈太平御覽〉卷 972・果部 9・益智

山菓有益智蒲萄
〈藝文類聚〉卷 87・菓部下・益智

13)

石門峯石間多龍鬚草
〈太平御覽〉卷 994・百卉部 1・龍鬚

14)

主簿山在胡郎廟南數里山下有温泉穴口周圍一丈許涌出如湯沸冬夏恒熱
〈初学記〉卷 7・驪山湯第 3・如湯

主簿山在胡郎廟南數里山下有温泉穴口周圍一丈許涌出如湯沸冬夏恒熱
〈北堂書鈔〉卷 158・地部 2・穴篇 13・ 16b

15)

香鑪峯頭有大磐石可坐數百人垂生山石榴三月中作花色似石榴而小淡紅敷紫萼燁燁可愛
〈初学記〉卷 28・石榴第 11

香鑪峯頭有大盤石可坐數百人垂生山石榴三月中作花色似石榴而小淡紅敷紫萼燁燁可愛[廬山記]
〈太平御覽〉卷 970・果部 7・石榴

香鑪峯頭有大磐石可坐數百人垂生山石榴二月中作花色如石榴而小淡紅敷紫萼燁燁可愛
〈齊民要術〉卷 4・安石榴第 41・自注

16)

匡俗周威王時生而神靈廬於此山世稱廬君故山取號焉

〈藝文類聚〉卷 7·山部下·廬山

〈白孔六帖〉卷 5

(注)「威」、「太平御覽」卷 41 引「張僧鑑尋陽記」作「武」

匡俗出於周威王時生而神靈隱淪潛廬於此山俗稱廬君故山取號焉 [廬山記]

〈初學記〉卷 8 州郡部·江南道第 10·廬山

廬山匡俗字子孝本東里子出周武王時生而神靈屢逃徵聘廬於此山時人敬事之俗後仙化空羅猶存弟子觀室悲哀哭之旦暮事同烏號世稱廬君故山取號焉 [周景式]

〈水經注〉卷 39·廬江水注

17)

石門山在康皇東北八十餘里是一山之大谷有澗水亦名石門澗吐源浚遠爲衆泉之宗每夏霖秋潦轉石發樹聲動數十里

〈藝文類聚〉卷 8·山部下·石門山

18)

石門是一大谷谷中有脩林萬頃偉木千尋日月之光罕照焉

〈藝文類聚〉卷 9·水部下·澗

19)

若風輕竟山有聲若雷不十日便驗土人常以爲候

〈北堂書鈔〉卷 151·天部 2·風篇 16·竟山有聲

051004 張野廬山記

1)

有白雲冠帶峯巖呼爲山帶

〈太平御覽〉卷8・天部・雲

2)

廬山天將雨則有白雲或冠峯巖或亘中嶺俗謂之山帶不出三日必雨

〈太平御覽〉卷41・地部6・廬山

廬山天將雨則有白雲或冠峯巖或亘中嶺俗謂之山帶不出三日必雨

〈藝文類聚〉卷7・山部下・廬山

〈白孔六帖〉卷5

：參考：

[張野遠法師銘]

〈世說新語〉文学第4・61・注

051005 劉遺民廬山記

1)

有此白氣也

〈北堂書鈔〉卷 151・天部 2・氣篇 8・白氣暎嶺下 1b

：参考：

〔廬山精舍誓文〕

維歲在攝提格七月戊辰朔二十八日乙未法師釋慧遠貞感幽奧霜懷特發乃延命同志息心貞信之士百二十三人集于廬山之陰般若雲臺精舍阿彌陀像前率以香華敬薦而誓焉推斯一會之衆夫緣化之理既明則三世之傳顯矣遷感之數既符則善惡之報必矣推交臂之潛淪悟無常之期切審三報之相催知險趣之難拔此其同志諸賢所以夕惕宵勤仰思攸濟者也蓋神者可以感涉而不可以迹求必感之有物則幽路咫尺苟求之無主則渺茫何津今幸以不謀而僉心西境叩篇開信亮情天發乃機象通于寢夢欣歡百于子來于是靈圖表暉景俟神造功由理諧事非人運茲實天啓發其誠冥運來萃者矣可尅心重精疊思以凝其慮哉

然其景績參差功德不一雖晨祈云同夕歸攸隔即我師友乃眷良可悲矣

是以慨焉胥命整襟法堂等施一心亭懷幽極誓茲同人俱遊絕域其有驚出絕倫首登神界則無獨善于雲嶠望兼全于幽谷先進之與後升勉思彙征之道然復妙觀大儀啓心貞照識以悟新形由化革籍扶容于中流蔭瓊柯以永言標雲衣于八極汎香風以窮年體忘安而彌穆心超樂以自怡臨三塗而緬謝傲天宮而長辭紹衆靈以繼軌指太息以爲期究茲道也豈不弘哉

〈大藏經〉 輦 9 …全晋文による

051006 王彪之廬山記

1)

若乃飄飄高崖迢遞峻峯箕風吐穴而蓬勃暈雲出岫而鬱蒼

〈北堂書鈔〉卷 158 地部 2·穴篇 13 25b

: 参考 :

* [王彪之·廬山賦序]

1)

廬山彭澤之山也雖非五嶽之數穹窿嵯峨實峻極之名山也

〈水經注〉卷 39·廬江水注 p742

* [王彪之·賦]

1)

於是乎統一體而詠之

〈文選〉卷 46·王文憲集序·李善注

* [王彪之·遊仙詩]

1)

遠遊絕塵霧輕舉觀滄溟蓬萊陰倒景崑崙罩曾城並以山臨水而影倒謂之倒景

〈文選〉卷 22·謝靈運·從游京口北固應詔·李善注

051007 廬山記

1)

山高二千三百六十丈周迴二千五十里東南三十二里

〈太平御覽〉卷 41・地部 6・廬山

2)

廬山之西嶺有甘水曾有一柁從山頂流下后人號柁下溪

〈北堂書鈔〉卷 138・柁・甘水流柁 6a

3)

有雲冠帶岑巖

〈北堂書鈔〉卷 150・天部 2・雲 7・冠巖 14a

4)

廬山在龍崗

〈北堂書鈔〉卷 157・地部・崗篇 4・龍崗 7b

5)

山中藥多人參

〈太平御覽〉卷 991・藥部 8・人參

6)

石門山石間多生石斛

〈太平御覽〉卷 992・藥部 9・石斛

7)

山有三石梁廣不盈尺俯盼者然無底吳孟將弟子過此梁見老翁坐桂樹下以玉盃承甘露與孟

〈藝文類聚〉卷 89・木部下・桂

參考

[尋陽記]

廬山上山有三石梁長數十丈廣不盈尺杳然無底吳孟將弟子登山過此梁見一翁坐桂樹下以玉杯承甘露漿與孟

〈太平御覽〉卷 957・木部 6・桂

：參考：

[廬山南嶺精舍記]

1)

北面大嶺對鼓山峯東接黃龍山山下有洞穴世傳有黃龍出焉西連鷄栖山

〈北堂書鈔〉卷 158・地部 2・穴篇 13 16b

051008 伏滔遊廬山序

1)

廬山者江陽之名嶽其大形也背岷流面彭蠡蟠根所據亘數百里重嶺架嶂仰挿雲日俯瞰川湖之流焉

〈藝文類聚〉卷7 山部上・廬山

〈白孔六帖〉卷5

051011 幕阜山記

1)

山有石壁刻銘上言禹治水登此山高於平地一千八百丈周五百里二十四氣福德之鄉洪水之災居其上可以度世又有列仙之寶壇場在其側旁有竹兩本脩翠猗然隨風掃拂其上有池水正澄潔時二魚游泳其中有葛仙翁煉丹井藥臼尚存山無穢草惟杞與芳芎之屬有石如丹硃絕頂有石田數十畝墜渠隱然非人力所能爲有僧園曰長慶有宮曰玉清鳥道斷絕不可登覽左黃龍右鳳凰皆在山麓也
〈太平寰宇記〉卷 113 江南西道 11·平江縣·幕阜山 (二) p102 上

051012 令狐見堯玉笥山記

[玉笥山記]

1)

漢武好仙察衆山之跡知此山爲靈感之司遂於山頂致降眞壇日夕祈禱天乃降白玉笥置壇上武帝遣使取至其壇側飄風大振卷玉笥而去因封爲玉笥山

又漢武時邑民伐材於山爲廡館闕殿中梁一條邑民相謂曰欲精仙館在其梁棟未可以凡木爲之經數旬未獲忽一夜震雷風烈天降白玉梁一條光彩瑩目至今下有玉梁觀

至魏武時遣人取之至其山門亭午之際雷霆大震化爲白龍擘煙霧而去

晉永嘉中有人見有都木巖下梁黃門侍郎蕭子雲聿來棲上兼撰立館碑經五載忽有一人來謂之曰館之東北有洞曰都木坑水自東注可以久居矣子雲遂徙家居之後全家隱洞中不知所之

大曆初有道士謝修通者宜春人也此山不出凡四十年如野人後遇一人引入溪源於溪中得一碑長三尺乃蕭侍郎清虛之館碑更行半里見宅基古磚瓦石皆異遂結庵居之長慶初入都木坑偶見一宅重扉須臾有一青衣童子招修通入見一人紫綬峩冠佩劍立堂之左一人碧綬素簡立堂之右童子曰左者蕭君右者梅君即梅福也通乃叩頭再拜求住修通好食小蒜二君子曰子乃葷腥之人安能住此賜修通嘉禾五穗松葉半斤令頓服之服之中半二君乃令歸精神似不足眼目睢盱門人相謂曰師修行不出凡七十年爲邪氣所亂大道何味乎通至寶曆初夢人告曰造一精舍待君既寤曰旦日我當死矣七日而卒門人求備棺槨空見衣冠而已然年九十八

〈太平御覽〉卷 41 地部 6·玉笥山

[0550] 四瀆海湖

055001 四海圖

1)

交廣南有邛州其處極熱

〈文選〉卷15・張衡思玄賦・注・衡曰

055002 陸綏海賦圖

1)

馬銜其狀馬首一角而龍形

〈文選〉卷12・海賦・〈馬銜〉注・善曰

055006 河洛記

1)

諺云伊洛魴鯉天下最美洛口黃魚天下不如

〈太平御覽〉卷 936・鱗介部 8・鯉魚

2)

洛陽北山謂之邙山其上無大樹大業都城之北嶺上有古樗樹不知其來早晚婆娑周迴四五畝已來在伊闕正南相當越公等將建都城之日據此樹以爲南北定准嫌樗木名惡號婆娑羅樹矣

〈太平御覽〉卷 959・木部 8・樗

055007 九江圖

* [張須九江圖]

1)

九江參差隨水勢而分其間有洲或長或短百里至五十里始別鄂陵終會江口一云烏江二云白蚌江三云烏土江四云嘉靡江五云叻江六云里江七云菌洲江八云沙堤江九云廩江 [張須九江圖]

〈通典〉卷 182 州郡典 12·江州

一云三里江二云五州江三云嘉靡江四云烏土江五云白蚌江六云白烏江七云箇江八云沙堤江九云廩江參差隨水勢長短或百里或五十里始于鄂陵終于江口會于桑落洲 [張須元緣江圖]

〈經典積文〉卷第 3·尚書音義上·禹貢·九江

〈尚書注疏卷第 6·禹貢第 1·九江〉

〈資治通鑑·胡三省注〉劉宋泰始二年條：作 [張須元九江圖]

* [張澣九江圖]

1)

又張澣九江圖所載有三里五畎烏土白蚌九江之名不同

〈史記〉夏本紀·索隱 p61

* [九江圖經]

1)

甘泉水在縣南甘泉驛之南其水味甘飲訖猶有餘香因以名焉其山即曰甘泉山

按州圖經云昔山頂有船桅從頂沿流而下土人亦名爲桅下溪桓伊爲江州刺史常遣左右賚糧尋山之奧冀覩非常乃至一處見有大湖湖側有敗船當時聞有桅流下甚疑惑後聞有船方驗

〈太平御覽〉卷 65·地部 30·甘泉水

* [九江記]

1)

馬當山高八十丈周迴四里在古彭澤縣北一百二十里其山構枕大江山象馬形迴風急擊波浪涌沸舟舡上下多懷憂恐山際立馬當山廟以祠之

〈太平御覽〉卷 48·地部 13·馬當山

2)

彭蠡湖在尋陽縣東南與都昌縣分界湖心有大孤山案郡國志彭蠡湖周迴四百五十里内有石高數十丈大禹刻其石以記功焉又有乞烏隨船行舟人擲搏飯接之高下不失一粒今此烏沿江靈廟多有不獨在彭蠡湖爾

〈太平御覽〉卷 66·地部 31·湖

* [九江錄]

1)

庾亮在武昌諸佐吏殷浩等乘秋夜佳景共登南樓俄而不覺亮至衆將避之公曰老子於此不淺便坐談詠至今名庾公樓

〈太平御覽〉 卷 176・居處部 4・樓

055008 庾仲雍江記

1) 若城至武城口三十里者也南對郭口夏浦而不常泛矣東得苦菜夏浦浦東有苦菜夏（疏「夏」作「山」）江逕其北故浦有苦菜之名焉山上有菜苦可食江水左得廣武口江浦也江之右岸有李姥浦浦中偏無蚊蚋之患矣北對崢嶸洲冠軍將軍劉毅破桓玄於此洲玄乃挾天子西走江陵矣
〈水經注〉卷 35 江水注 p661 守敬下 p2903

2)

谷里袁口江津南入歷樊山上下三百里通新新興馬頭二治樊口之北有灣昔孫權裝大船名之曰長安亦曰大船載坐直之士三千人與群臣泛舟江津屬值風起權欲西取蘆洲谷利不從乃拔刀急止令取樊口薄船船至岸而敗故名其處爲敗船灣因鑿樊山爲路以上人即名其處爲吳造峴在樊口上一里今厥處尚存

〈水經注〉卷 35 江水注 p662 守敬下 p2910

* [江記]

1)

江中有鼈洲長三里與蕪湖洲相接

〈初學記〉卷 8·江南道第 10·鼈洲

* [庾仲雍江圖]

1)

姑熟至直沆十里東通丹陽湖南有銅山一名九井山山有九井井與江通

〈文選〉卷 22·殷仲文·南州桓公九井詩·李善注

2)

蘆洲至樊口二十里伍子胥初所渡處也樊口至武昌十里然此蘆洲在下非子胥所渡處也

〈文選〉卷 27·鮑明遠·還都道中詩·李善注

055009 尋江源記

1)

梁山東西數千里望之若長雲垂天劔閣銘曰巖巖梁山積石峨峨

〈太平御覽〉卷 167 州郡部 13 · 萬州

2)

景穴有嘉魚其味甚美景穴在梁山縣栢枝山

〈太平御覽〉卷 167 州郡部 13 · 萬州

景穴有嘉魚其味甚美景穴出栢枝即此山是也

〈太平寰宇記〉卷 149 山南東道 8 · 梁山縣 · 栢枝山 (二) p328

* [尋江記]

1)

羿屠巴蛇於洞庭其骨若陵故曰巴陵

〈太平御覽〉卷 171 · 州郡部 17 · 岳州

* [江源記]

1)

南浦郡高梁山尾東跨江西首劔閣東西數千里山嶺長峻其峯崔嵬於蜀市望之若長雲垂天一日行之乃極其頂俯視衆山泯若平原劔閣銘可謂岩梁山積石峨峨即述此也

〈太平御覽〉卷 44 · 地部 9 · 高梁山

高梁山尾東跨江西首劔閣東西數千里山嶺長峻其峯崔嵬於蜀市望之若長雲垂天一日行之方極其頂俯視衆山低若平原劔閣銘所謂巖巖梁山積石峨峨即述此山也

〈太平寰宇記〉卷 149 山南東道 8 · 南浦縣 (二) p325

2)

楚辭所謂巫山之陽高丘之阻高丘蓋高都山也

〈太平御覽〉卷 49 · 地部 14 · 高都山

楚辭所謂巫山之陽高邱之阻高邱蓋高都山也

〈太平寰宇記〉卷 148 山南東道 7 · 巫山縣 · 高山都 (二) p320

3)

平康縣有羊腸嶺大江發源之所

〈太平御覽〉卷 166 · 州郡部 12 · 松州

4)

商旅於此取石至都輪造石渚因名采石

〈太平寰宇記〉卷 105 江南西道 3 · 當塗縣 · 牛渚山 (二) p35

5)

姑浦口南岸立津關譏行旅

〈太平寰宇記〉卷 105 江南西道 3 · 當塗縣 · 姑孰溪 (二) p36

055010 庾仲雍漢水記

1)

漢水出廣漢漾水出嶓冢東流至武都而與漢水合沔水出武都沮縣亦與漢水相合
〈初學記〉卷7·地部下·漢水第二·敘事

2)

武當縣西四十里漢水中有洲名滄浪也
〈史記〉卷2 夏本紀·索隱 p72

* [漢水記]

1)

漢水有泉方員數十步夏常沸涌望見白氣衝天能差百病常有數百人飲浴之
〈太平御覽〉卷70·地部35·泉水

漢水有溫泉方圓數十步冬夏常沸涌望見白氣衝天能差百病
〈藝文類聚〉卷九·水部下·泉 p166

2)

有女郎擣衣砧也
〈太平御覽〉卷762·器物部7·堪 [自注：與砧同]

3)

金水郡領金岡縣本金城郡後魏改之
〈初學記〉卷8·州郡部·山南道第7·金水

4)

自漢口入二百里得涓口有村入三百里得鄭城楚邑也
〈初學記〉卷8·州郡部·淮南道·楚邑

5)

西縣有白馬山
〈太平寰宇記〉卷133 山南西道1·西縣·白馬山 (二) p228

6)

黃土縣鷄鳴山北十五里有聖公館即後漢光武起義兵屯此
〈太平寰宇記〉卷141 山南西道9·洵陽縣·聖公館 (二) p272

：參考：

1)

縣(武當縣)西北四十里漢水中有洲名滄浪洲庾仲雍漢水記謂之千齡洲非也
〈水經注〉卷28·沔水注 p543 守敬下 p2351

2) ?

漢水自武遂川南入蔓葛谷越野牛逕至關城合西漢水（庾仲雍）

〈水經注〉卷 20・漾水注 p386 守敬中 p1680

055011 淮地記

1)

按古嶽瀆經云禹治水止桐柏山乃獲淮渦水神（自注：名曰無支）祁善應對言語辨淮之淺深源之遠近形若獼猴縮鼻高額青軀白首金目雪牙頸伸百尺力逾九象禹授之庚申遂頸鎖大鐵鼻穿金鈴從淮之陰鎖龜山之足淮水乃安流注于海

〈太平御覽〉卷 882・神鬼部 2・神下

055012 虞仲翔川瀆記

1)

太湖東通常州淞江水南通烏程霅溪水西通義興荊溪水北通晉陵滬湖東連嘉興非一溪水凡五通謂之五湖

〈太平寰宇記〉卷94 江南東道6・烏程縣・具區菽 (一) p708

055013 洞庭記

1)

此洲之間嘗苦蛟患者昔荊有飲飛者將太阿渡江江神奪之兩蛟夾船飲飛入水斬蛟而出波焉今廟在洲上

〈太平寰宇記〉卷94 江南東道6·烏程縣·具區菽 (一) p708

揚子洲此洲之間常苦蛟患者昔荊飲飛將大附渡江蛟夾船飛入水斬蛟而去今廟在洲上

〈岳陽風土記〉

055014 張又新煎茶水記

1)

陸鴻漸言無錫縣惠山寺石泉水第二〔張又新煎茶記〕

〈太平寰宇記〉卷92 江南東道4・無錫・惠山寺

1)

禹治水三至桐栢山乃獲淮渦水神名曰無支祁喜應對言語辨江淮之淺深原隰之遠近形若獼猴縮鼻高額青軀白首金目雪牙頭伸百尺力踰九象搏擊騰踔疾奔輕利若倏忽間人視之不可久禹授之童律童律不能制授之烏木田烏木田不能制授之庚辰庚辰能制鷄脾栢木魅水靈火妖石怪奔號叢繞以千數庚辰以戟逐去遂頸鎖大策鼻穿金鈴徙淮泗陰鎖龜山之足淮水之安流注於海後唐永泰初年□湯任楚州刺史時有漁人夜釣於龜山之下其鈎爲物所制不復出漁者健水沈沒於底可五十丈見大鐵鎖盤龜山足尋不知極漁人遂告湯湯命漁人及能水者數十人獲其鎖力不能制加以大牛五十頭鎖乃振動稍就岸時天無風驚波浪翻觀者大駭緣之鎖末見一獸狀如青猿白首長鬣雪牙金爪闐然出岸高五丈許蹲踞起伏若獼猴但兩目不能視兀若昏醉耳目口鼻水流如泉涎沫腥穢不可近久乃引頸伸欠雙眸忽開光彩若電顧視人輒欲狂怒觀者奔走獸亦徐徐引鎖拽牛沒於水去時楚多名士與湯相顧愕然不知其由獸竟不復見邇來漁者時知鎖所在

〈太平寰宇記〉卷 16 河南道 16·臨淮縣·淮渦神 (一) p141

055020 譚子和海嶠志

1) 二月五月八月有潮上二禺峽逐浪返五羊一宿而至故曰中宿峽
〈太平寰宇記〉卷 157 嶺南道 1・広州・清遠県・中宿峽

書名索引

凡例：

- 一 配列は漢字の筆画順とし、「新字源」の配列によった。
- 一 書名の後のゴシックの数字は、整理番号である。
- 一 本書における掲載ページを（ ）で示した。

【二画】

- 九江記 → 九江圖 055007
九江圖 055007 ----- (42) (132)
九江圖經 → 九江圖 055007
九江録 → 九江圖 055007
九疑山記 050607 ----- (28)
九嶷山記 050705 ----- (32)

【三画】

- 三晉記 → 三晉山險記 050106
三晉山險記 050106 ----- (16) (72)
- 山川記 → 永初山川古今記 050007
山記 → 武當山記 050606
山居圖 050005 ----- (12) (64)
- 川瀆記 → 虞仲翔川瀆記 055012

【四画】

- 中岳潁川志 050303 ----- (21)
- 五岳山名圖 → 五岳眞形圖 050001
五岳眞形圖 050001 ----- (10) (53)
五岳眞形圖經 → 五岳眞形圖 050001
五岳圖 → 五岳眞形圖 050001
五岳圖序 → 五岳眞形圖 050001
五嶽諸山記 → 元結五嶽諸山記 050008
- 元結五嶽諸山記 050008 ----- (14)
- 太山記 → 泰山記 050201
太山郡記 → 泰山記 050201

- 天台記 → 徐靈符天台山記 050501
 天台山記 → 徐靈符天台山記 050501
- 巴南山川記 050902 ----- (35) (115)
- 水飾圖 → 杜寶水飾圖 055015
- 王嘉名山記 050006 ----- (12)
 王屋山記 050105 ----- (16)
 王珣虎丘記 → 虎丘山記 050401
 王方慶九嶼山記 → 九嶼山記 050705
 王彪之廬山記 051006 ----- (38) (124)
 王彪之廬山賦序 → 王彪之廬山記 051006
- [五画]**
- 仙人採芝圖 050003 ----- (11) (58)
- 句将山記 050608 ----- (28) (97)
- 古嶽瀆經 055019 ----- (47) (143)
- 四海百川水源記 → 釋道安四海百川水源記 055016
 四海圖 055001 ----- (41) (129)
- 永初山川古今記 050007 ----- (13) (65)
- 玉笥山記 051012 ----- (40) (128)
- [六画]**
- 伏滔遊廬山序 051008 ----- (39) (126)
- 吐蕃黄河録 → 賈耽吐蕃黄河録 055017
- 名山記 → 王嘉名山記 050006
 名山記 → 名山略記 050002
 名山記 → 謝靈運遊名山志 050004
 名山略記 050002 ----- (10) (55)
- 江記 → 庾仲雍江記 055008
 江源記 → 尋江源記 055009
 江圖 → 九江圖 055007

羊頭山記 050103 ----- (15) (69)

西岳記 050703 ----- (31) (105)

【七画】

刪水經 → 李吉甫刪水經 055018

吳興山墟名 050506 ----- (24) (86)

宋永初山川記 → 永初山川古今記 050007

宋永初古今山川記 → 永初山川古今記 050007

杜寶水飾圖 055015 ----- (46)

李氏宜都山川記 050612 ----- (30)

李吉甫刪水經 055018 ----- (47)

李居一王屋山記 → 王屋山記 050105

邢子勳龍山記 050104 ----- (16) (71)

【八画】

竺法真登羅山疏 050802 ----- (33) (111)

竺法真登羅浮山記 → 竺法真登羅山疏 050802

竺法真登羅浮山疏 → 竺法真登羅山疏 050802

周景式廬山記 051003 ----- (37) (118)

宜都山川記 → 李氏宜都山川記 050612

宜都山川記 → 袁山松宜都山川記 050611

宗淵麓山記 050610 ----- (29) (99)

宗敬微廬山記 051010 ----- (39)

武夷諸山記 050503 ----- (23)

武當山記 050606 ----- (27) (96)

河洛記 055006 ----- (42) (131)

法師遊山記 → 遠法師遊山記 051002

虎丘山序 → 顧愷之虎丘山序 050402

虎丘山記 050401 ----- (22) (81)

虎丘山疏 → 虎丘山記 050401
虎丘山銘 → 虎丘山記 050401

青城山記 050901 ----- (35)

[九画]

神壤記 050107 ----- (17)

南岳記 → 徐靈期南岳記 050601

南岳記 → 傅先生南岳記 050602

南嶽小錄 050605 ----- (27)

南嶽記 → 徐靈期南嶽記 050601

封禪儀記 → 馬第伯封禪儀記 050202

恒山記 050101 ----- (15) (67)

恒山圖經 050102 ----- (15) (68)

海潮賦圖 055003 ----- (41)

海賦圖 055002 ----- (41) (130)

海濤志 → 寶叔蒙海濤志 055004

泉山記 050504 ----- (24) (84)

洞庭記 055013 ----- (45) (141)

[十画]

徐道覆羅浮山記 050803 ----- (34) (113)

徐靈符天台山記 050501 ----- (23) (83)

徐靈期南嶽記 (南岳記) 050601 ----- (26) (89)

晏天王山記 → 恒山記 050101

烏嶺山記 050505 ----- (24) (85)

殷斌武當山記 → 武當山記 050606

泰山記 (太山記) 050201 ----- (18) (73)

華山記 050701 ----- (31) (101)

華山精舍記 050702 ----- (31) (104)

荆山記 050609 ----- (29) (98)

袁山松宜都山川記 050611 ----- (29) (100)

袁彥伯羅山疏 → 袁彥伯羅浮山記 050801

袁彥伯羅浮山記 050801 ----- (33) (107)

袁彥伯羅浮山疏 → 袁彥伯羅浮山記 050801

馬第伯封禪儀記 050202 ----- (18)

【十一画】

張又新煎茶水記 055014 ----- (45) (142)

張密廬山雜記 051009 ----- (39)

張野廬山記 051004 ----- (37) (122)

張須九江圖 → 九江圖 055007

張須元九江圖 → 九江圖 055007

張須元緣江圖 → 九江圖 055007

常山圖經 → 恒山圖經 050102

淮地記 055011 ----- (45) (139)

陸鴻漸顧渚山記 → 顧渚山記 050502

【十二画】

傅先生南岳記 050602 ----- (26) (92)

傅玄華嶽銘序 050704 ----- (32) (106)

尋江記 → 尋江源記 055009

尋江源記 055009 ----- (44) (135)

庾仲雍江水記 → 庾仲雍江記 055008

庾仲雍江記 055008 ----- (43) (134)

庾仲雍江圖 → 庾仲雍江記 055008

庾仲雍漢水記 055010 ----- (44) (137)

湘中山水記 050613 ----- (30)

遊名山志 → 謝靈運遊名山志 050004

遊名山記 → 謝靈運遊名山志 050004

遊名山者 → 謝靈運遊名山志 050004

遊廬山序 → 伏滔遊廬山序 051008

開河記 055005 ----- (42)

【十三画】

嵩山記 → 盧元明嵩高山記 050301

嵩高記 → 盧元明嵩高山記 050301

幕阜山記 051011 ----- (40) (127)

漢水記 → 庾仲雍漢水記 055010

煎茶水記 → 張又新煎茶水記 055014

虞仲翔川瀆記 055012 ----- (45) (140)

賈耽吐蕃黃河錄 055017 ----- (46)

遠法師遊山記 051002 ----- (36) (117)

遠法師廬山記 → 廬山略記 051001

【十五画】

劉會鄒山記 → 劉蒼鄒山記 050203

劉澄之永初山川記 → 永初山川古今記 050007

劉澄山川記 → 永初山川古今記 050007

劉遺民廬山記 051005 ----- (38) (123)

劉蒼鄒山記（劉蒼騶山記）050203 ----- (18) (75)

廣州山川記 050804 ----- (34) (114)

【十六画】

盧元明嵩高山記 050301 ----- (20) (76)

盧肇海潮賦 → 海潮賦圖 055003

盧鴻嵩山記 050302 ----- (20)

衡山記 050603 ----- (26) (93)

衡山圖經 050604 ----- (27) (95)

【十七画】

謝康樂山居圖 → 山居圖 050005

謝靈運名山記 → 謝靈運遊名山志 050004

謝靈運記 → 謝靈運遊名山志 050004

謝靈運遊名山志 050004 ----- (11) (59)

廬山略記 051001 ----- (36) (116)
廬山記(無記名) 051007 ----- (38) (125)

麓山記 → 宗淵麓山記 050610

羅含湘中山水記 → 湘中山水記 050613

羅浮山記 → 袁彥伯羅浮山記 050801

羅浮山疏 → 竺法真登羅山疏 050802

譚子和海嶠志 055020 ----- (47) (144)

[二十画]

釋道安四海百川水源記 055016 ----- (46)

釋慧遠廬山記 → 廬山略記 051001

寶叔蒙海濤志 055004 ----- (42)

[二十一画]

顧愷之虎丘山序 050402 ----- (22) (82)

顧渚山記 050502 ----- (23)